

青森県域における縄文時代後期前半の環状列石の展開

高屋 昂平

要旨

近年の環状列石研究は北関東・中央高地の事例を中心に進んでいるが、青森県内における成立過程に関しては議論が乏しい。また1990年代以降の論点の多角化に伴い、環状列石と呼ばれる遺構の定義自体に揺らぎが生じている。本稿では、青森県域（青森県及びその周辺）における「環状列石」の成立過程とその特徴を明らかにするために、環状列石の定義の整理と、縄文時代後期前半の津軽地域・米代川流域・南部地域・上北下北地域における環状列石の形態の分類を行った。その結果、青森県域の「環状列石」は、南方からの「環状列石」の影響や、「石棺墓」や「列状集落」「環状集落」などの多様な集落構造といった在地の要素などの複合的な要因で成立したこと、「環状列石」は円環をなすものではなく直線による構成を指向していたこと、また、方法には地域差があるものの、環状集落の中央広場とは異なる広場的な空間が構築されていたことを指摘した。また、下村B遺跡や館石野I遺跡でみられる、直線的な配石を中心とした配石遺構群に関しても、「環状列石」と同様の役割を果たした可能性が高いことから、礫により広場的な空間が構築されているものを、環状構造の有無によらず包括し合わせて議論すべきであることを提案した。

1. はじめに

縄文時代後期前半の、青森県を中心とした北緯40度以北（以下、青森県域）には、日本海側を中心として、著名な環状列石が複数存在する。環状列石は北関東など本州内の他地域にも分布するが、青森県域の事例とは集落との共伴関係などに違いが見られる。そのため、南から北へという単純な伝播論的図式によって、青森県域の環状列石の成立を説明することは難しい（阿部2021a）。そこには、複合的な要因が関係したと考えられる。

そこで本稿では、環状列石の形態の分析を通し、青森県域における環状列石の成立、形態、性格について検討したい。

2. 研究史と問題の所在

2-1. 研究史

日本で初めて報告された環状列石は、忍路環状列石（北海道小樽市）である（渡瀬1886）。「環状列石」という名称は、長谷部言人（1919）が初めて用いた。氏は上の山貝塚（岩手県大船渡市）の環状列石を、類似する忍路の「環状石籬」と比較し、「ラトーン、サークルの名称の下には種々異った形式のものがある」（長谷部1919:161、原文ママ）と述べた。北海道における事例と上の山例との関連を認めつつも、同一の括りには含められない可能性があることも想定し、環状列

石と呼称したことがうかがわれる。

現在に連なる環状列石研究の嚆矢といえるのは、その位置づけを世界的な視点で探った駒井和愛（1950ほか）の研究である。氏は忍路環状列石や音江環状列石（北海道深川市）の調査を行い、以下の二つについて重要な指摘をした。一つ目は環状列石に類する遺構が東日本全体に存在し、それらの間には共通性があるという点である。駒井の以前にもそのことは認識されていたが（例えば長谷部）、積極的に語られていなかった。氏は列島東半で環状列石の文化が共有されていたとし、東日本全体を「ストーン・サークル（環状列石墓）文化圏」（駒井1952:34）と呼称した。二つ目は北海道の環状列石が、「縄文式文化」と没交渉ではないという点である。氏は、音江環状列石から出土した打製石器が、東北地方で縄文式土器と共伴する石器に類似していることを根拠として、ストーン・サークルと縄文式文化の関係を導き出している。

大湯環状列石（秋田県鹿角市）の発掘（斎藤ほか編1953）以後は、本州における議論が活発となる。斎藤忠（1971, 1985）や江坂輝弥（1971, 1985）らが、主に遺構の性格について激しく議論を交わした。前者は墓地説を採り、後者は周囲の遺構と合わせて生活の場であったと述べている。しかし、墓地か否かという二項対立的な議論に終始していたことは否めない。

一方、よりマクロな視点で日本列島の配石遺構の起源を追おうとした研究者もいた。阿部義平（1968）

は、大陸からの影響を注視しなくてはならないとしつつも、縄文時代早期から礫を用いる墓制が存在するため、日本列島内に配石遺構の起源があると指摘した。また上野佳也（1984）も、配石遺構は本州で成立した遺構であると述べている。上野の場合、縄文時代早期・前期に整った配石遺構があることと、北海道島で縄文時代後期に配石遺構がみられるようになるのは、同時期の土器の伝播との関わりが深いと考えられることを根拠としている。

1990年代以降は、他の遺構や集落との関係に重点を置く議論が展開されている。その代表的な研究者といえるのが、小杉康・佐々木藤雄・阿部昭典・石坂茂の4人である。

小杉康（2001ほか）は、北海道の事例を中心に環状列石と周堤墓の系譜関係を論じ、環状列石を、安易に円環をなす大規模記念物として扱うことに疑義を示している。氏は大規模記念物とは何かという視点から、大規模な土木工事をせずとも、大規模な遺構や遺跡は成立しうることを、また、墓標のような明らかなものでなければ、文字資料の乏しい遺構を記念物と定義できないことを指摘している。

佐々木藤雄（2002ほか）は、環状列石の起源を中央広場に墓地を持つ環状集落に求め、北関東・中央高地の「集落内環状列石」から、東北地方の「集落外環状列石」へと変容していくと指摘した。氏は、配石遺構の内側に墓域、外側に生活空間がある長野県大野遺跡（縄文時代中期後葉）を、環状列石の初源モデルとしている。

阿部昭典は、環状列石と集落の関係性に着目したほか、広域的に環状列石を捉え、伝播経路について検討した。氏は当初、環状列石は中期末葉の北関東・中央高地における大規模集落の崩壊と同時期に成立し、柄鏡型敷石住居の拡散と連動しながら、日本海側を中心に青森県域まで伝播したと述べた（阿部2008）。ただし成立期に関してはその後見解を改め、加曽利EⅢ式期（縄文時代中期後葉）としている（阿部2018, 2019, 2021a）。また東北地方北部では、北関東・中央高地起源の環状列石が、在地の集落構造に受容され成立したと述べている（阿部2021b）。

石坂茂（2002ほか）は北関東・中央高地の事例に注目し、円環に拘らず、「列石遺構」の概念で環状列石を捉えようとした。氏は列石がめぐりきらない「弧状列石」を環状列石と同種の遺構とし、形態や大小の違いはその集団の祭祀形態の階層構造を示すと述べている。また、環状列石が成立した場所については、当初集落外に求めたが（石坂2002, 2004）、後に集落と関係して成立したと改めている（石坂2007）。

ほかにも、環状列石を含む景観を重視し、天文学的な様相を明らかにした小林達雄（小林編2002）、単位配石に分解して環状列石を捉えた宮尾亨（2007ほか）、環状列石造営のコストを分析した児玉大成（2009）、北海道の墓制との関係について検討した小林克（2007）らがいる。彼らは環状列石の存在意義や形態、拡散プロセスについて、先述した4人とは異なる意見を述べており、環状列石を多様な視点で捉えている。

2-2. 問題の所在

以上が環状列石の大まかな研究史であるが、以下に示すように二つの課題がある。

1. 1990年代以降の論点の多角化により、議論が混乱しつつある
2. 青森県域における環状列石の受容・成立の過程に関する研究が乏しい

一つ目は、「環状列石」という名称の定義が多様化したことが原因である。「環状列石」という名称は、斎藤忠（1971）が大湯環状列石を国の史跡とする際に、史跡名として用いたことにより、同種の遺構を表す名称として定着した。氏は「環状列石」の大定義を個々の組石により環状を構成するものとし、小定義を墓域であることとしている。すなわち、当初「環状列石」は環状の見た目を前提としつつ、遺構の性格をも包括する名称であった。ところが近年は、見た目よりも、性格や出自を重視した意味合いで「環状列石」が用いられることが多くなっているため、各研究者の視点の違いにより定義が多様化し、議論がかみ合わなくなっている。したがって、議論の混乱を招かないための、平準な定義が必要となる。

二つ目については、北関東・中央高地の環状列石との関係性が論点となる。青森県域の環状列石と北関東・中央高地の環状列石とは、時期的な差があるためである（阿部2021a）。さらに、両地域の集落構造には差があるため、南から北へという単純な伝播論的図式で説明するのは難しい。したがって、青森県域における環状列石の受容・成立過程に関しては、複合的な要因を検討しつつ議論する必要がある。

3. 研究の方法

3-1. 研究の方法

前章で述べた二つの問題点を踏まえ、まず環状列石の定義を改めて行う。次に、青森県域で環状列石がみられる縄文時代後期前半を、環状列石の成立前期（以

下Ⅰ期)、隆盛期(以下Ⅱ期)、衰退期(以下Ⅲ期)の3期に分け、環状列石の成立時期を追う。そして青森県域における環状列石出現の過程とその形態的系譜、性格について検討を行う。

3-2. 環状列石の定義

まず、小杉康、佐々木藤雄、阿部昭典、石坂茂の提示した定義を確認する。

3-2-1. 小杉康(2001)の定義

氏は時期や地域により環状列石の規模・形態に多様性が認められることを指摘している。その一方で、共通項として「地上に石を円環上に配列する」(小杉2001:187)という点を挙げ、そのうち個人墓と想定される遺構以外を「環状列石」と定義している。また、形態と構成単位から「環状列石」を分類し、複数の配石墓が全体として環状に配置されているものを「環状配石墓群」としている。また、配石墓が主体とならないものについては、配石に規則性があるものを「環状圍繞列石」、配石に規則性がないものを「環状集石群」に分類している。

3-2-2. 佐々木藤雄(2002ほか)の定義

氏は環状列石の形態の多様性や、後代の攪乱などの影響の存在を指摘し、形態的側面のみから総合的な議論を進めることの限界を示唆している。そこで、列石の有無に関わらず、集落内を日常・非日常の空間に区画する役割を持つものを「環状列石」と定義した。また、集落の内外に応じて「集落内環状列石」と「集落外環状列石」に分類した。「集落外環状列石」は、社会階層化の進行により、祖先を祀る最高のステージとして「集落内環状列石」から発達したと述べている。

3-2-3. 阿部昭典(2008ほか)の定義

氏は環状列石の定義を以下のように明示している(阿部2008:215)。

1. 規模が長径30～50mほどの規模を有し、列石が環状もしくは弧状にめぐむもの。これは環状列石が中央広場の外縁部をめぐむものであることから、直径30～50mの規模を有するものであり、10m前後のものはその範疇には含まれない。
2. これらの列石は、全周する事例は稀であり、多くは斜面部山側の削平部分に配され、列石内部の空間は略平坦である。
3. 列石の内部空間には、住居跡(炉跡)などは伴わず、墓坑などが伴う場合が多い。列石内部は、出

土遺物が希薄である。

また、「環状列石」は広場空間を区画しており、集落と伴しない事例も、「分散型集落」の内部にあるとしている(阿部2011)。

3-2-4. 石坂茂(2002ほか)の定義

氏は列状構造を重視し、これを持つものを「列石遺構」と定義し、これをさらに、礫が環状を呈する「環状列石」と、礫が途切れ環状に巡りきらない「弧状列石」とに細分している。また、「列石遺構」は、集団統合の役割を持つ祭祀的遺構であり、「環状列石」と「弧状列石」の形態や大きさの違いは各集団の階層差を示すと述べている。

3-2-5. 「環状列石」の定義

以上を踏まえ、本稿では、「多数の礫により構築され、ある程度の広さの遺構・遺物の検出が周囲に比べて疎な空間を囲う意図がみられる遺構」を「環状列石」と定義する。形態を表す従来の定義からはやや離れるが、現状で最もわかりやすい表現であることから、「環状列石」という用語を便宜的に用いる。

3-3. 時間軸の設定

縄文時代後期前半に前後する配石遺構が検出された遺跡で報告されている放射性炭素年代測定値と、青森県史の縄文時代後期編年(以下県史編年、児玉2013)とを対比しながら時期区分を行った。表1には、OxCal 4.4にてIntCal 20を用いて暦年較正を行った結果を記載している¹⁾。なお、土器付着物・土器付着炭化物については、海洋リザーバー効果の影響を考慮する必要がある。 $\delta^{13}\text{C}$ の値が $-20\sim-24\%$ の試料は、100BP以上古い値が出ている可能性があるため、(小林2019)、以下の年代幅はこれに留意して検討している。

環状列石の存在が報告された遺跡のうち、放射性炭素年代測定値があるのは、管見に触れた限りで、小牧野、伊勢堂岱、大湯環状列石、西平内Ⅰの4遺跡である。これらの遺跡で年代測定がなされている資料のほとんどが、各遺跡で環状列石が造営された時期に含まれる。その年代幅はca. 4,300～3,800cal BPに収まり、県史編年3期前後に相当する。これがⅡ期(隆盛期)となり、Ⅰ期(成立期)は4,300cal BP以前(県史編年1、2期)、Ⅲ期(衰退期)は3,800cal BP以後(県史編年4～6期)となる。

表1 放射性炭素年代測定試料一覧

遺跡名	試料名	試料種類	状況ほか	暦年較正用 (BP ± 1σ)	δ ¹³ C (‰)	較正年代 (cal BP)	Lab. code	文献
山田(2)	08YAMA2-3	木炭	ASI-20 炉覆土、部位不明、中期後葉以降	4070 ± 30	-27.16 ± 0.61	4,799 ~ 4,437	IAAA-82241	小田川ほか2011
力持	'19-1	炭化物	6号住 埋土、炭化クルミ(部位不明)、中期末葉以降	3,680 ± 30	-19.77 ± 0.27	4,141 ~ 3,910	IAAA-142789	星2019
水上(2)	56号配石トチノキ炭化子葉	炭化材	56号配石、部位不明、後期1期	3,808 ± 20	-20.02 ± 0.2	4,287 ~ 4,095	PLD-32012	秦ほか2017
力持	'08-5	炭化物	BIIc3住居跡1号Q3埋土、クリ、中期後葉~中期末葉	4,050 ± 80	-26.4	4,828 ~ 4,300	IAA-353	星2008
山田(2)	09yamada2-7	木炭	CSI-2 炉 2層、部位不明、中期末葉	3,930 ± 20	-24.66 ± 0.24	4,425 ~ 4,254	IAAA-92264	小田川ほか2011
水上(2)	12Mizu(2)-5-SI1039	土器附着炭化物	SI1039 土器埋設炉、中期末葉	3,888 ± 20	-23.85 ± 0.21	4,410 ~ 4,246	IAAA-122405	秦ほか2017
御所野	IWGS-47	炭化物	GI144住 No.1 床上、クリ子葉、中期末葉大木10式	4,060 ± 40	-24.7	4,800 ~ 4,420	IAAA-32070	高田・中村2006
御所野	IWGS-141	炭化物	FE48-01住 FC46-36 No.3、クリ?、中期末葉大木10式	3,945 ± 25	-20.7 ± 0.1	4,516 ~ 4,292	PLD-4441	高田・中村2006
御所野	IWGS-283	炭化物	DE24-01住 DE24 IV-3(火災住居)、オニグルミNo.1、中期末葉大木10式新段階	3,990 ± 40	-28	4,573 ~ 4,299	IAAA-32074	高田・中村2006
御所野	IWGS-288	炭化物	DE22-01住 DF20 IV6(火災住居)、オニグルミ、中期末葉大木10式新段階	3,970 ± 20	-24.1 ± 0.1	4,520 ~ 4,405	PLD-4445	高田・中村2006
御所野	IWGS-304	炭化物	GD66-01住GC66 4層、オニグルミ、中期末葉大木10式	4,175 ± 40	-25.4	4,835 ~ 4,579	MTC-04713	高田・中村2006
山田(2)	07YAMADA(2)-5	木炭	SI-19 炉2 31層、部位不明、中期末葉~後期2期	4,030 ± 40	-27.67 ± 0.78	4,786 ~ 4,413	IAAA-71851	中村・宮嶋2009
山田(2)	07YAMADA(2)-6	木炭	SI-19 炉2 34層、部位不明、中期末葉~後期2期	4,030 ± 40	-30.36 ± 0.49	4,786 ~ 4,413	IAAA-71852	中村・宮嶋2009
山田(2)	07YAMADA(2)-7	木炭	SI-19 炉2 34層、部位不明、中期末葉~後期2期	4,000 ± 30	-27.55 ± 0.67	4,527 ~ 4,412	IAAA-71853	中村・宮嶋2009
山田(2)	07YAMADA(2)-12	木炭	SK-16 覆土、部位不明、中期末葉~後期2期	3,990 ± 30	-25.38 ± 0.55	4,526 ~ 4,409	IAAA-80659	中村・宮嶋2009
川原平(6)	Kawa(6)-01	木炭	SI01 炉1 覆土、部位不明、中期末葉~後期2期	3,900 ± 20	-22.76 ± 0.25	4,415 ~ 4,248	IAAA-130777	新山・荒谷2016
川原平(6)	Kawa(6)-02	木炭	SI01 Pit6 覆土、部位不明、中期末葉~後期2期	3,960 ± 20	-23.22 ± 0.22	4,519 ~ 4,300	IAAA-130778	新山・荒谷2016
川原平(6)	Kawa(6)-03	木炭	SI01 Pit25 覆土、部位不明、中期末葉~後期2期	3,890 ± 20	-25.09 ± 0.21	4,411 ~ 4,247	IAAA-130779	新山・荒谷2016
川原平(6)	Kawa(6)-04	木炭	SI01 土坑3(SK48) 覆土、部位不明、中期末葉~後期2期以降	3,910 ± 20	-27.12 ± 0.22	4,417 ~ 4,254	IAAA-130780	新山・荒谷2016
川原平(6)	Kawa(6)-05	木炭	SI03 炉 覆土、部位不明、中期末葉~後期2期	3,890 ± 20	-28.82 ± 0.23	4,411 ~ 4,247	IAAA-130781	新山・荒谷2016
水上(2)	12Mizu(2)-6-SI3101	土器附着炭化物	SI3101 床面P-1、後期1~2期	3,875 ± 19	-24.8 ± 0.21	4,410 ~ 4,236	IAAA-122406	秦ほか2017
小牧野	報文V No.3	炭化物	Fトレンチ住居跡、オニグルミ核、後期1~2期	3,740 ± 60	-25.5	4,290 ~ 3,905	beta-138259	児玉・田中・辻村2000
北玉川	No.5	炭化物	2号土坑 5層、部位不明、後期1~2期	3,700 ± 30	-25.62 ± 0.48	4,148 ~ 3,929	IAAA-171908	千田2020
大湯	No.24	土器附着炭化物	遺構外、底部付近内面、後期1~2期	3,770 ± 30	-24.58 ± 0.27	4,240 ~ 3,996	IAAA-141688	藤井・赤坂・工藤2017
大川添(3)	C-1	木炭	SI01 床面、部位不明、後期1~2期	3,800 ± 20	-28.58 ± 0.16	4,245 ~ 4,092	IAAA-130769	齋藤ほか2014
漆下	バリノ・サーヴェイ6	炭化材	SI331、ムラサキシキブ属(部位不明)、後期1~2期	3,830 ± 30	-22.97 ± 1.39	4,402 ~ 4,097	IAAA-11727	菅野2011
漆下	バレオ・ラボ4	炭化材	SK10094、クリ(最外以外部位不明)、後期1~2期	4,040 ± 25	-25.3 ± 0.13	4,576 ~ 4,422	PLD-6154	菅野2011
漆下	バレオ・ラボ11	炭化材	SI171 5層暗褐色土、ブナ属(最外以外部位不明)、後期1~2期	3,725 ± 25	-25.63 ± 0.14	4,150 ~ 3,984	PLD-6952	菅野2011
漆下	バレオ・ラボ13	炭化材	SI205 2層黒褐色土、カエデ属(最外以外部位不明)、後期1~2期	3,760 ± 25	-24.3 ± 0.13	4,234 ~ 3,992	PLD-6954	菅野2011
漆下	バレオ・ラボ20	炭化材	SI226 2層黒褐色土、エゴノキ属(最外以外部位不明)、後期1~2期	3,725 ± 25	-28.44 ± 0.15	4,150 ~ 3,984	PLD-6961	菅野2011
漆下	バレオ・ラボ22	炭化材	SI263 炉(最新)8層黒色土、モクレン属(最外以外部位不明)、後期1~2期	3,790 ± 25	-24.43 ± 0.2	4,245 ~ 4,087	PLD-6963	菅野2011
漆下	バレオ・ラボ29	炭化材	SI10006、オニグルミ核炭化種実(最外以外部位不明)、後期1~2期	3,805 ± 25	-27.05 ± 0.16	4,290 ~ 4,091	PLD-6970	菅野2011
漆下	バレオ・ラボ34	炭化材	SK10094 暗褐色土、クリ(最外以外部位不明)、後期1~2期	4,030 ± 25	-25.35 ± 0.14	4,571 ~ 4,420	PLD-6975	菅野2011
漆下	バレオ・ラボ35	炭化材	SK10109 黒褐色土、クリ(最外以外部位不明)、後期1~2期	3,820 ± 20	-25.19 ± 0.14	4,292 ~ 4,099	PLD-6976	菅野2011
小牧野	6KMK付1-口外	土器附着物	口縁~胴部外面、後期2期前半	3,740 ± 60	-34.2	4,290 ~ 3,905	TKa-14639	國木田・吉田・児玉2009
小牧野	7KMK付2-口外	土器附着物	口縁~胴部外面、後期2期前半	3,720 ± 60	-32.8	4,245 ~ 3,891	TKa-14640	國木田・吉田・児玉2009
小牧野	8KMK付3-底外	土器附着物	底部付近外面、後期2期後半	3,700 ± 90	-30.6	4,397 ~ 3,775	TKa-14641	國木田・吉田・児玉2009
小牧野	9KMK付4-口外	土器附着物	口縁~胴部外面、後期2期後半	3,390 ± 60	-29.5	3,827 ~ 3,469	TKa-14642	國木田・吉田・児玉2009
小牧野	10KMK付5-口外	土器附着物	口縁部外面(文様内)、後期2期後半	3,750 ± 110	-23.7	4,421 ~ 3,832	TKa-14675	國木田・吉田・児玉2009
伊勢堂岱	No.1	土器附着炭化物	列石C埋設土器(SR03)、胴部中位~下半部外面、後期3期	3,550 ± 40	-25.88 ± 0.49	3,969 ~ 3,700	IAAA-102561	榎本2011
伊勢堂岱	No.2	土器附着炭化物	列石D埋設土器(SR01)、胴部下下部外面(付着やや薄い)、後期3期	3,720 ± 30	-27.5 ± 0.48	4,153 ~ 3,976	IAAA-102562	榎本2011
伊勢堂岱	No.3	土器附着炭化物	列石D西部盛土直上、口縁部外面、後期3期	3,760 ± 30	-25.95 ± 0.61	4,236 ~ 3,990	IAAA-102563	榎本2011
伊勢堂岱	No.4	土器附着炭化物	遺構外、底部付近外面、後期3期	4,030 ± 30	-19.21 ± 0.57	4,574 ~ 4,418	IAAA-102564	榎本2011
伊勢堂岱	No.5	土器附着炭化物	SK142、口縁部付近外面、後期3期	3,760 ± 30	-24.49 ± 0.58	4,236 ~ 3,990	IAAA-102565	榎本2011
伊勢堂岱	No.6	土器附着炭化物	遺構外、底部付近内面、後期3期	3,610 ± 30	-23.09 ± 0.3	4,064 ~ 3,836	IAAA-102566	榎本2011
伊勢堂岱	No.7	土器附着炭化物	遺構外、口縁部外面、後期3期	3,570 ± 30	-25.11 ± 0.45	3,972 ~ 3,727	IAAA-102567	榎本2011
伊勢堂岱	No.8	土器附着炭化物	SK28、底部付近外面、後期3期	3,850 ± 30	-22.23 ± 0.47	4,405 ~ 4,153	IAAA-102568	榎本2011
伊勢堂岱	No.9	土器附着炭化物	胴部破片外面、後期3期	3,630 ± 30	-25.41 ± 0.45	4,079 ~ 3,845	IAAA-102569	榎本2011
伊勢堂岱	No.10	土器附着炭化物	胴部破片内面、後期3期	4,270 ± 30	-21.57 ± 0.49	4,952 ~ 4,724	IAAA-102570	榎本2011
藤株	No.3	炭化物	A区SI18 5層、後期3期	3,920 ± 20	24.29 ± 0.29	4,420 ~ 4,255	IAAA-122326	築瀬ほか2014
北玉川	No.1	土器附着炭化物	3号住居跡 柱上、後期3期	4,310 ± 30	-25.22 ± 0.52	4,960 ~ 4,834	IAAA-171904	千田2020
北玉川	No.3	炭化物	1号住居跡 炉内(焼土下)、部位不明、後期3期	3,850 ± 20	-26.34 ± 0.43	4,403 ~ 4,154	IAAA-171906	千田2020
北玉川	No.4	土器附着炭化物	5号土坑 埋土下位、後期3期	3,720 ± 30	-25.03 ± 0.4	4,153 ~ 3,976	IAAA-171907	千田2020
北玉川	No.6	炭化物	1号住居跡 埋土中、部位不明、後期3期	3,780 ± 30	-26.21 ± 0.52	4,246 ~ 4,000	IAAA-171909	千田2020
大湯	No.22	土器附着炭化物	遺構外、口縁部内面、後期3期	3,560 ± 30	-26.33 ± 0.25	3,969 ~ 3,723	IAAA-141686	藤井・赤坂・工藤2017
大湯	No.23	土器附着炭化物	遺構外、口縁部内面、後期3期	3,690 ± 30	-23.78 ± 0.29	4,146 ~ 3,924	IAAA-141687	藤井・赤坂・工藤2017
漆下	バリノ・サーヴェイ7	炭化材	SKF337、クリ(部位不明)、後期3期	3,880 ± 30	-25.36 ± 1.42	4,414 ~ 4,160	IAAA-11728	菅野2011
漆下	バリノ・サーヴェイ8	炭化材	SK338、ヤナギ属・モクレン属(樹皮)、後期3期	3,600 ± 30	-24.14 ± 0.83	4,060 ~ 3,831	IAAA-11729	菅野2011

遺跡名	試料名	試料種類	状況ほか	暦年較正用 (BP±1σ)	δ ¹³ C(‰)	較正年代 (cal BP)	Lab. code	文献
漆下	バリノ・サーヴェイ16	炭化材	ST101 201層LT40、クリ(部位不明)、後期3期	3,580±40	-27.9±1.81	4,058~3,723	IAAA-11737	菅野2011
漆下	バリノ・サーヴェイ20	炭化材	ST101 264層LT40、クリ(部位不明)、後期3期	3,680±40	-27.34±1.43	4,147~3,896	IAAA-11741	菅野2011
漆下	バリノ・サーヴェイ23	炭化材	ST101 201層LS39、エゴノキ属(部位不明)、後期3期	3,630±30	-27.58±0.95	4,079~3,845	IAAA-11744	菅野2011
漆下	バリノ・サーヴェイ24	炭化材	ST101 318層LS41、クリ(部位不明)、後期3期	3,620±40	-28.26±1.87	4,084~3,833	IAAA-11745	菅野2011
漆下	バリノ・サーヴェイ28	炭化材	ST101 286層石組み内、クリ(部位不明)、後期3期	3,520±30	-25.3±1.31	3,880~3,698	IAAA-11749	菅野2011
漆下	パレオ・ラボ7	炭化材	SN10010、クリ(最外以外部位不明)、後期3期	3,740±25	-22.81±0.23	4,224~3,985	PLD-6157	菅野2011
森吉家ノ前A	6	炭化材	SK209 床面直上、コナラ属コナラ亜属コナラ節(部位不明)、後期3期	3,470±40	-22.1±0.8	3,845~3,590	IAAA-31459	山本ほか2006
森吉家ノ前A	7	炭化材	SK214 床面直上、クリ(部位不明)、後期3期	3,560±40	-23.63±0.87	3,962~3,727	IAAA-31460	山本ほか2006
森吉家ノ前A	No.1	炭化物	SK16、後期3期	3,690±40	-23.1	4,149~3,903	PLD-3034	山本ほか2006
森吉家ノ前A	No.4	炭化物	SK209、後期3期	3,815±40	-23.9	4,403~4,088	PLD-3037	山本ほか2006
森吉家ノ前A	No.6	炭化物	SK249、後期3期	3,590±40	-24.1	4,070~3,726	PLD-3039	山本ほか2006
森吉家ノ前A	No.8	炭化物	SK283、後期3期	3,625±40	-24.5	4,084~3,835	PLD-3041	山本ほか2006
小勝田館	7	炭化物	SK43 土坑内埋設土器内	3,620±30	-27.67±0.44	4,072~3,840	IAAA-142249	袴田ほか2015
水上(2)	織物圧痕付炭化物	炭化材	遺構外出土?、部位不明、後期1期~3期	3,615±25	-29.58±0.22	4,060~3,841	PLD-32013	秦ほか2017
藤株	No.2	炭化物	A区S61 3層、後期1期~3期	3,630±20	-28.98±0.28	4,071~3,875	IAAA-122325	築瀬ほか2014
藤株	No.4	炭化物	B区SN1004 1層、後期1期~3期	3,670±30	-21.46±0.45	4,090~3,900	IAAA-122327	築瀬ほか2014
西平内 I	5	炭化物	環状列石内帯S14付近 遺構埋土、部位不明、後期1~3期	3,630±30	-24.19±0.4	4,079~3,845	IAAA-141009	濱田ほか2017
大湯	No.1	土器付着炭化物	遺構外、上部内面、後期1~3期	3,690±30	-24.62±0.24	4,146~3,924	IAAA-141665	藤井・赤坂・工藤2017
大湯	No.3	土器付着炭化物	pit969(SB612)、口縁部付近外面、後期3~5期	3,500±30	-26.2±0.25	3,868~3,650	IAAA-141667	藤井・赤坂・工藤2017
大湯	No.4	土器付着炭化物	SK1215、胴部中部内面、後期1~3期	4,120±30	-22.53±0.45	4,817~4,526	IAAA-141668	藤井・赤坂・工藤2017
大湯	No.6	土器付着炭化物	SK(F)296、口縁部外面、後期3期	3,650±30	-26.46±0.28	4,086~3,885	IAAA-141670	藤井・赤坂・工藤2017
大湯	No.10	土器付着炭化物	遺構外、口縁部外面、後期1~3期	3,710±30	-22.49±0.31	4,150~3,933	IAAA-141674	藤井・赤坂・工藤2017
大湯	No.21	土器付着炭化物	遺構外、胴部上部~口縁部外面、後期1~3期	3,770±30	-25.11±0.29	4,240~3,996	IAAA-141685	藤井・赤坂・工藤2017
砂子瀬	SUNAKOSE01	木炭	第10号土器埋設遺構、部位不明、後期1~3期	3,790±30	-24.46±0.59	4,289~4,013	IAAA-71791	中嶋ほか2009
西平内 I	7	炭化物	7号土坑 埋土中位、部位不明、後期3期?	3,640±30	-26.7±0.52	4,084~3,849	IAAA-141011	濱田ほか2017
小牧野	11KMK付6-口外	土器付着物	口縁部外面(文様内)、後期3期十腰内1式古段階	3,625±40	-26.4	4,084~3,835	TKa-14676	國木田・吉田・児玉2009
小牧野	12KMK付7-口外	土器付着物	口縁~胴部外面、後期3期十腰内1式古段階	3,665±40	-25.7	4,144~3,880	TKa-14677	國木田・吉田・児玉2009
小牧野	13KMK付8-口外	土器付着物	口縁~胴部外面、後期3期十腰内1式古段階	3,715±50	-25.8	4,231~3,906	TKa-14678	國木田・吉田・児玉2009
小牧野	報文Ⅷ SK-27	炭化物	SK-27、炭化材(ハンノキ節)、後期3期十腰内1式古段階	3,620±40	-26.2	4,084~3,833	beta-167980	児玉・蛇名2003
小牧野	報文Ⅷ SK-61	炭化物	SK-61、炭化オニグルミ内果皮、後期3期十腰内1式古段階	3,620±40	-24.8	4,084~3,833	beta-167982	児玉・蛇名2003
小牧野	報文Ⅸ KM-1	炭化物	環状列石北側盛土、炭化材(クリ近似種)、後期3期十腰内1式古段階以前	4,410±40	-26.2	5,276~4,861	beta-174953	児玉2006
小牧野	報文Ⅸ KM-2	炭化物	環状列石北側盛土、炭化材(クリ)、後期3期十腰内1式古段階以前	4,190±40	-25.8	4,844~4,581	beta-174954	児玉2006
小牧野	報文Ⅸ KM-4	炭化物	環状列石南側盛土新Ⅳ②層、炭化材(ヤナギ科)、後期3期十腰内1式古段階以前	3,660±40	-26.4	4,143~3,875	beta-174953	児玉2006
小牧野	報文Ⅸ KM-10	炭化物	環状列石南側盛土新③層、炭化材(クリ)、後期3期十腰内1式古段階以前	4,760±40	-27	5,588~5,329	beta-174953	児玉2006
小牧野	報文Ⅸ KM-11	炭化物	環状列石南側盛土新①層、炭化材(クリ)、後期3期十腰内1式古段階以前	3,720±40	-25	4,229~3,927	beta-174953	児玉2006
小牧野	17KMK付12-口内	土器付着物	口縁~頸部内面、後期3期十腰内1式新段階	4,150±140	-23.5	5,047~4,245	TKa-14682	國木田・吉田・児玉2009
小牧野	18KMK付13-口外	土器付着物	口縁部外面、後期3期十腰内1式新段階	3,610±50	-28.3	4,086~3,729	TKa-14683	國木田・吉田・児玉2009
小牧野	19KMK付14-頸外	土器付着物	頸部~胴部外面、後期3期十腰内1式新段階	3,495±45	-27.7	3,891~3,639	TKa-14684	國木田・吉田・児玉2009
小牧野	14KMK付9-底内	土器付着物	底部付近内面、後期3期十腰内1式古~新段階	4,100±45	-20.4	4,821~4,445	TKa-14679	國木田・吉田・児玉2009
小牧野	15KMK付10-底内	土器付着物	底部付近内面、後期3期十腰内1式古~新段階	3,690±45	-25	4,151~3,897	TKa-14680	國木田・吉田・児玉2009
小牧野	16KMK付11-頸外	土器付着物	頸部外面、後期3期十腰内1式古~新段階	3,670±50	-23.9	4,149~3,850	TKa-14681	國木田・吉田・児玉2009
小牧野	報文V No.4	炭化物	湧水遺構盛土、炭化物・ヒメグルミ核、後期2期後半~後期3期十腰内1式新段階	3,910±60	-23.3	4,519~4,153	beta-138260	児玉・田中・辻村2000
大湯	No.5	土器付着炭化物	SI02、胴部中部内面、後期4期	3,660±30	-25.47±0.3	4,086~3,897	IAAA-141669	藤井・赤坂・工藤2017
大湯	No.2	土器付着炭化物	SK(F)02 土坑底面、胴部下内面、後期1~3期	3,780±30	-27.14±0.22	4,246~4,000	IAAA-141666	藤井・赤坂・工藤2017
大湯	No.14	漆	SK224、後期3~5期	3,490±30	-28.29±0.27	3,841~3,648	IAAA-141678	藤井・赤坂・工藤2017
大湯	No.15	漆	pit140(SB213)、後期3~5期	3,510±30	-29.41±0.35	3,871~3,695	IAAA-141679	藤井・赤坂・工藤2017
大湯	No.16	漆	SK103、後期3~5期	3,620±30	-28.73±0.29	4,072~3,840	IAAA-141680	藤井・赤坂・工藤2017
大湯	No.17	漆	SK(F)217 9層、部位不明、後期3~5期	3,650±30	-28.99±0.34	4,086~3,885	IAAA-141681	藤井・赤坂・工藤2017
大湯	No.18	漆	pit959(SB615)、後期3~5期	3,460±30	-28.9±0.33	3,831~3,638	IAAA-141682	藤井・赤坂・工藤2017
大湯	No.13	炭化材	SI02 床面直上、部位不明、後期4~5期	3,480±30	-26.94±0.31	3,837~3,645	IAAA-141677	藤井・赤坂・工藤2017
漆下	パレオ・ラボ28	炭化材	SN10005 2層暗褐色土、クワ属(最外以外部位不明)、後期3~6期	3,665±25	-25.42±0.24	4,085~3,905	PLD-6969	菅野2011
漆下	バリノ・サーヴェイ17	炭化材	ST101 99層LT39、カツラ(部位不明)、後期4~6期	3,200±40	-29.22±1.22	3,487~3,349	IAAA-11738	菅野2011
漆下	バリノ・サーヴェイ18	炭化材	ST101 176層LT40、クリ(部位不明)、後期4~6期	3,400±30	-28.77±0.9	3,815~3,564	IAAA-11739	菅野2011
漆下	バリノ・サーヴェイ19	炭化材	ST101 186層LT40、クリ(部位不明)、後期4~6期	3,610±40	-27.77±1.43	4,081~3,777	IAAA-11740	菅野2011
漆下	バリノ・サーヴェイ22	炭化材	ST101 194層LS39、クリ(部位不明)、後期4~6期	3,530±40	-28.53±0.85	3,957~3,693	IAAA-11743	菅野2011
漆下	パレオ・ラボ1	炭化材	SKQ110、クリ(最外以外部位不明)、後期4~6期	3,510±25	-25.21±0.12	3,868~3,696	PLD-6151	菅野2011
漆下	パレオ・ラボ32	炭化材	SKQ10036 暗褐色土、クリ(最外以外部位不明)、後期4~6期	3,445±25	-26.61±0.14	3,828~3,591	PLD-6973	菅野2011
漆下	パレオ・ラボ37	炭化材	SR10117 1層上位暗褐色土、カエデ属(最外以外部位不明)、後期4~6期	3,765±25	-25.58±0.25	4,235~3,998	PLD-6978	菅野2011
漆下	バリノ・サーヴェイ9	炭化材	SKF483 RC46、クリ(部位不明)、後期4~6期以降	3,360±30	-23.02±0.92	3,689~3,488	IAAA-11730	菅野2011

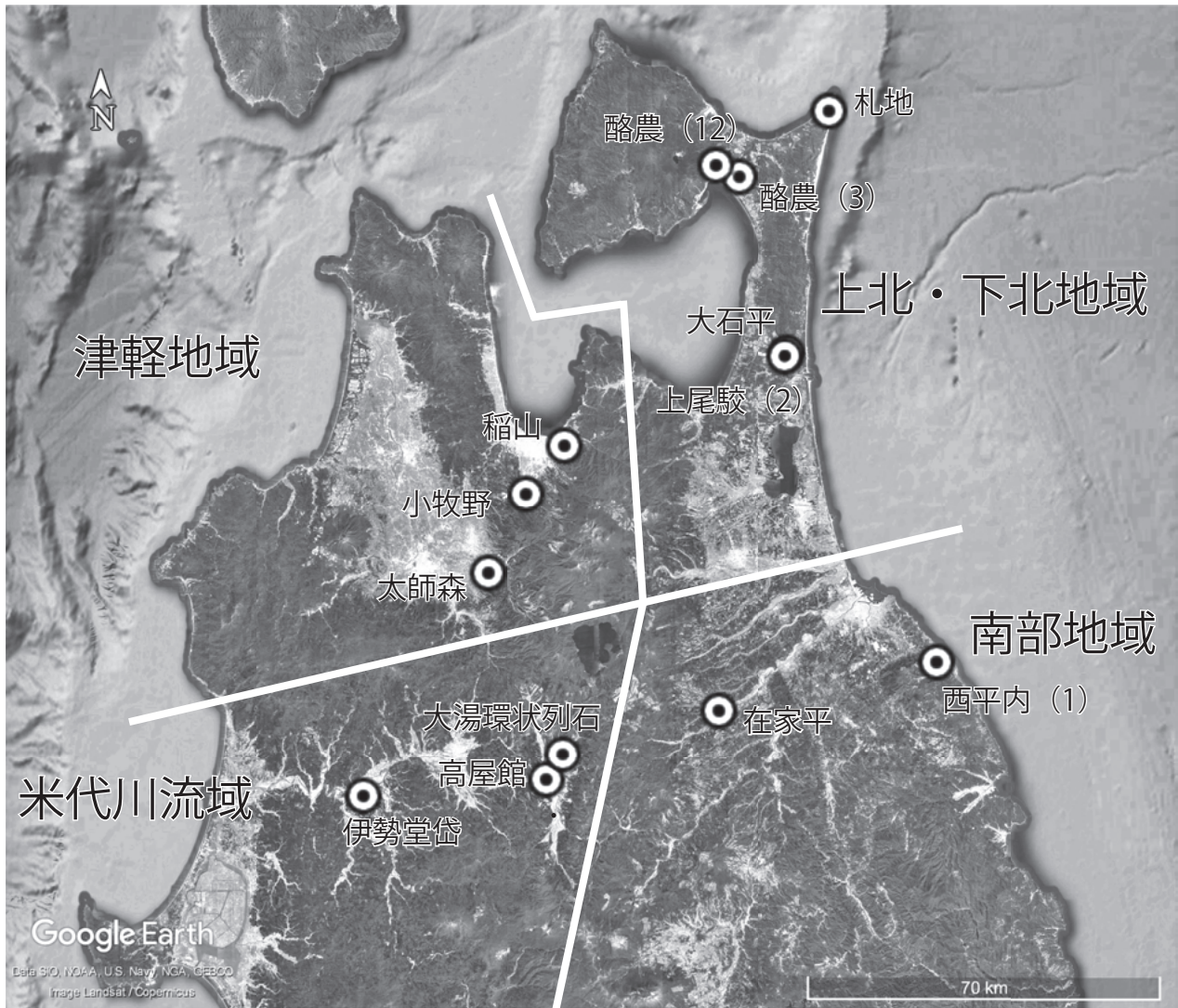


図1 本稿で取り扱う地域区分と環状列石の分布

4. 分析

4-1. 地域区分と「環状列石」の分類

本稿では、概ね北緯40度以北の青森県と秋田県北部を青森県域とし、以下の4つの地域に区分する(図1)。

津軽地域：津軽平野、青森平野を中心とした地域

米代川流域：米代川流域を中心とした地域

南部地域：新井田川・馬淵川流域を中心とした地域

上北・下北地域：奥入瀬川流域・下北半島を中心とした地域

「環状列石」は、形状から1～3類に分類した。うち1類については、礫配置からa類とb類に細分した。なお、掘り方や礫の抜き取り痕、後代の攪拌の影響など、遺構検出状況を考慮した上で、その平面形・礫配置を指向していると判断できるものはすべて分類対象とした。

1a類：列状の配石により構成される、直線的な形

状や、コの字型や四角形などの形状のもの

1b類：まばらに広がった礫群により構成される、直線的な形状や、コの字型や四角形などの形状のもの

2類：円形もしくはそれに準ずる隅丸方形などの形状のもの

3類：規格性が認められる塊状のもの

4-2. 「環状列石」の概観

「環状列石」と認定された遺構は17基ある(図1)。地域ごとの内訳は、以下の通りである。

津軽地域 (3基)：太師森 (1基)、小牧野 (1基)、稲山 (1基)

米代川流域 (7基)：高屋館 (1基)、大湯環状列石 (2基)、伊勢堂岱 (4基)

南部地域 (2基)：西平内 I (1基)、在家平 (1基)

上北・下北地域 (5基)：酪農 (12) (1基)、酪農 (3) (1基)、上尾駁 (2) (1基)、大石平 (1基)、札地 (1基)

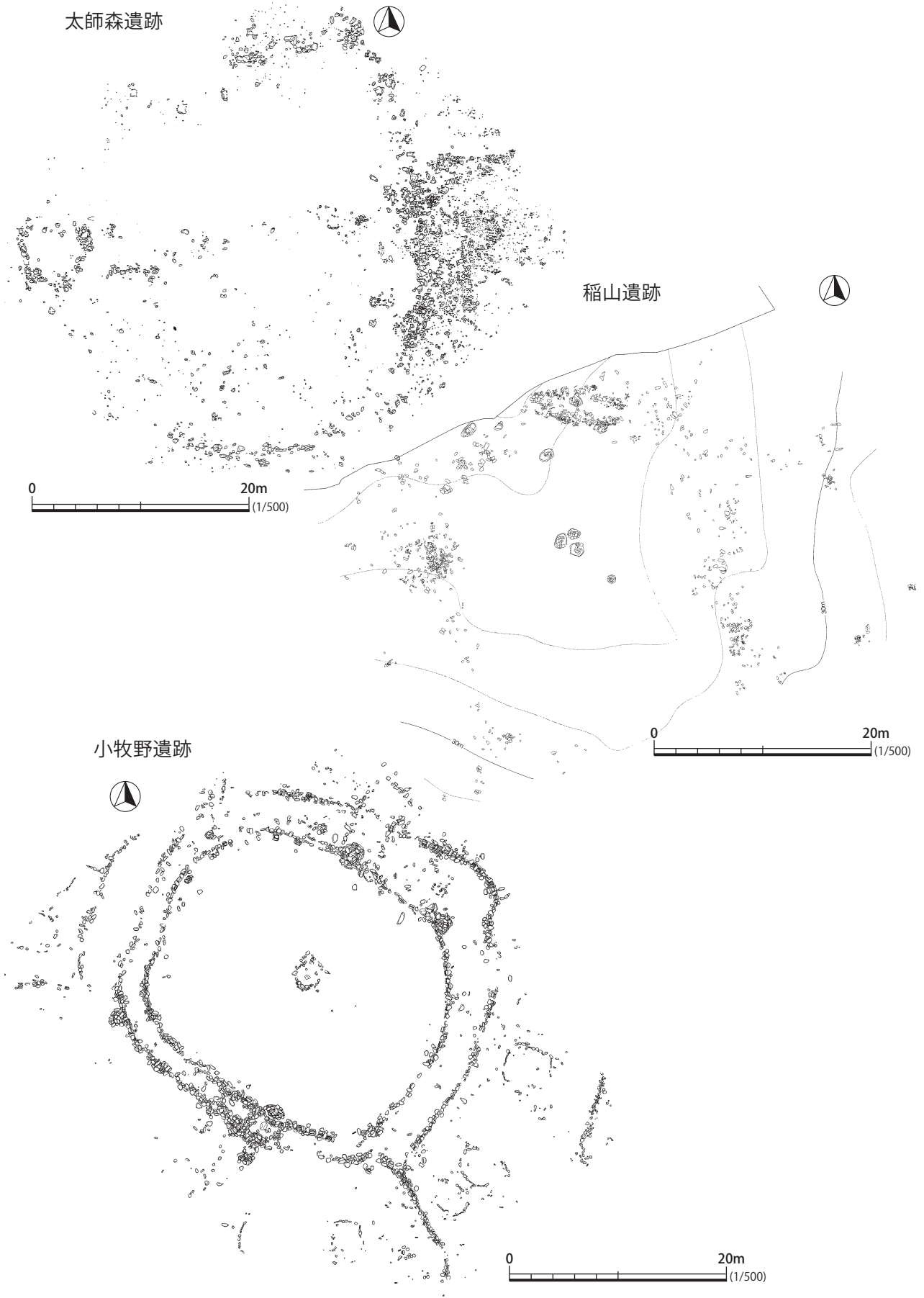
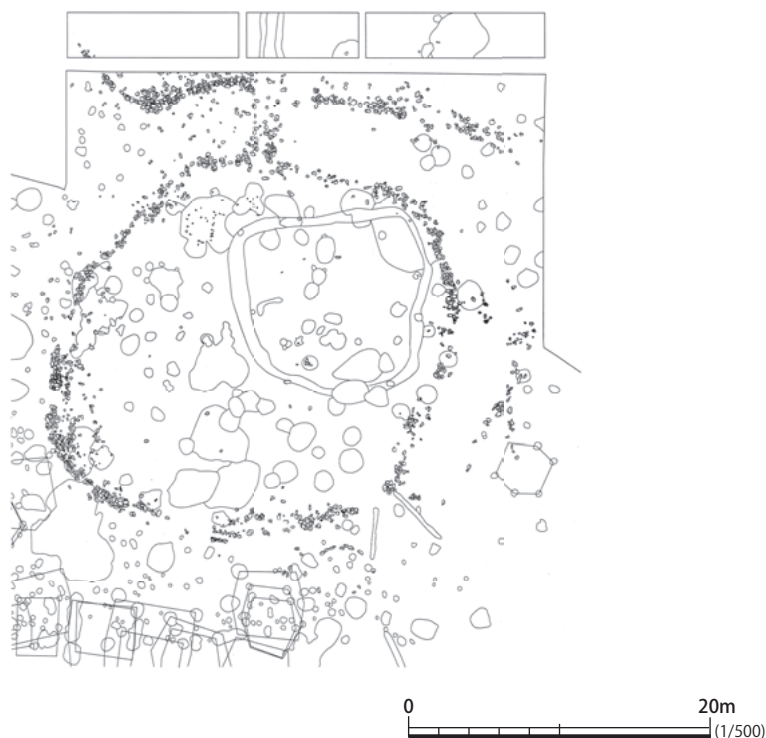


図2 津軽地域の環状列石

環状列石 A



環状列石 B



図3 米代川流域の環状列石1 (伊勢堂岱遺跡)

環状列石 C



環状列石 D

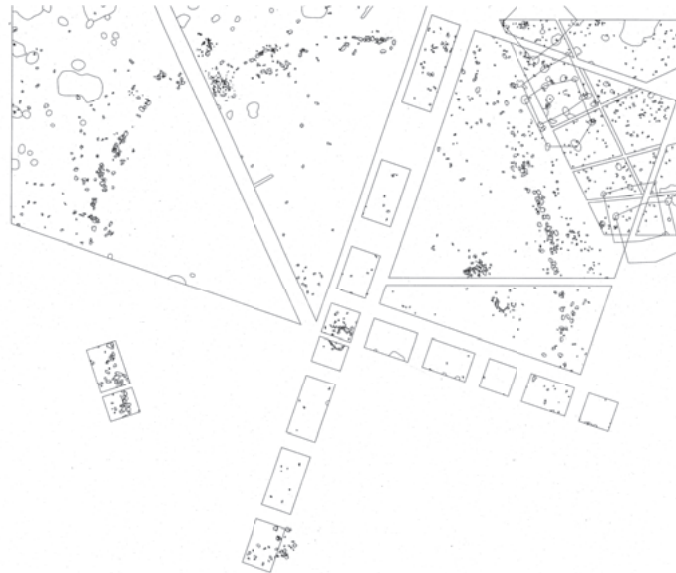
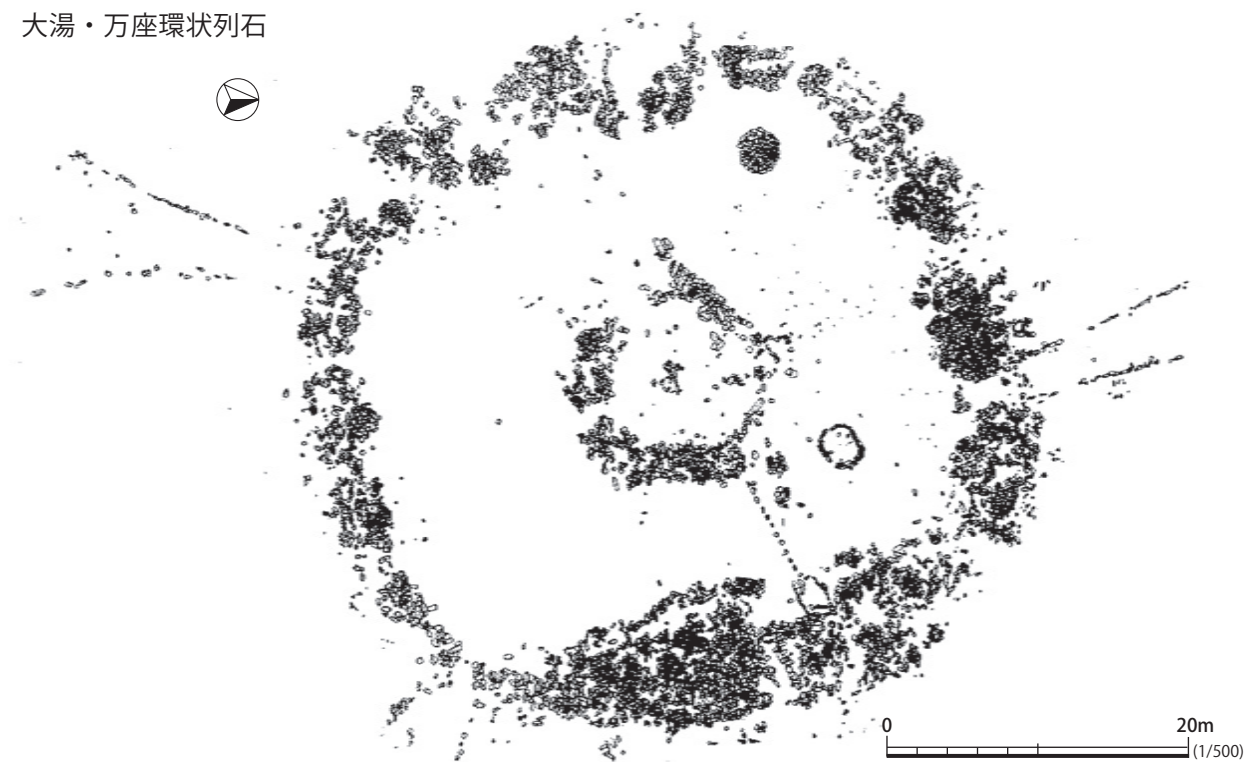
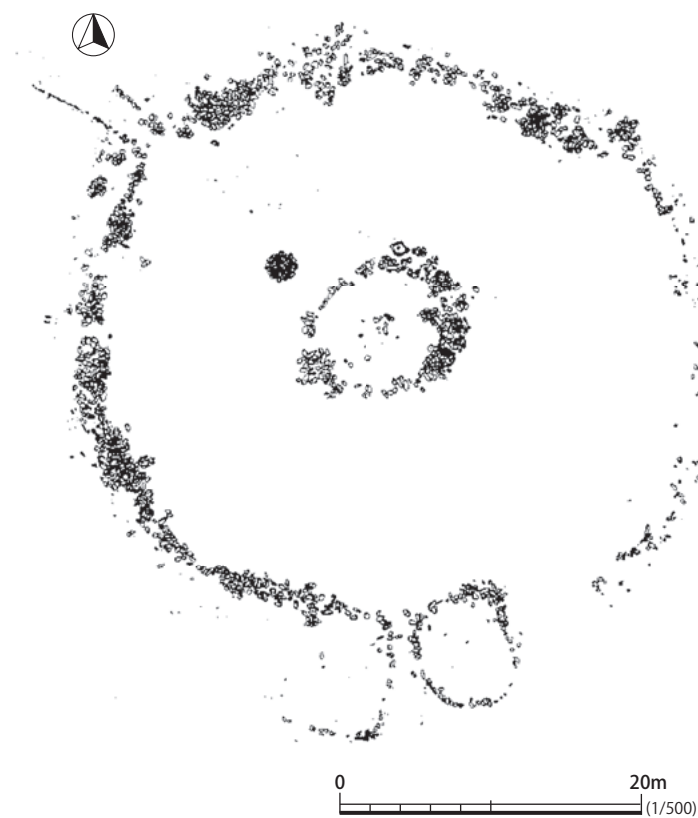


図4 米代川流域の環状列石2 (伊勢堂岱遺跡)

大湯・万座環状列石



大湯・野中堂環状列石



高屋館遺跡

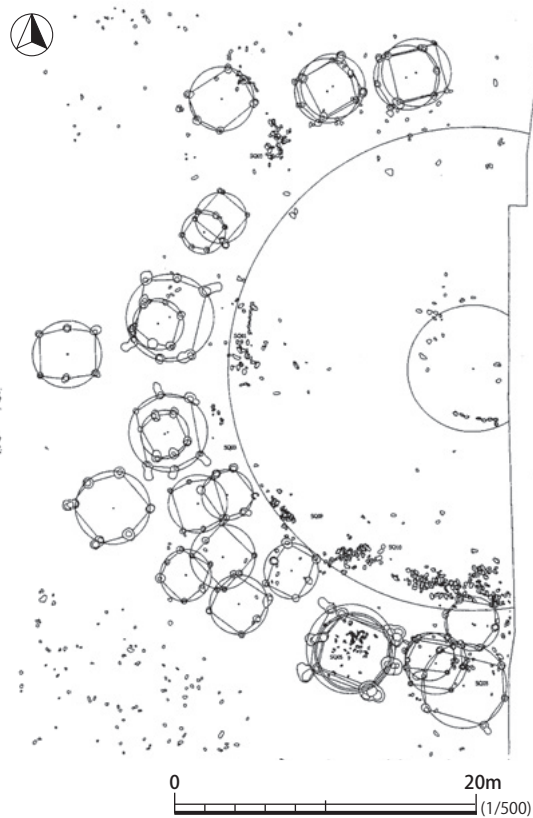


図5 米代川流域の環状列石3（大湯環状列石・高屋館遺跡）

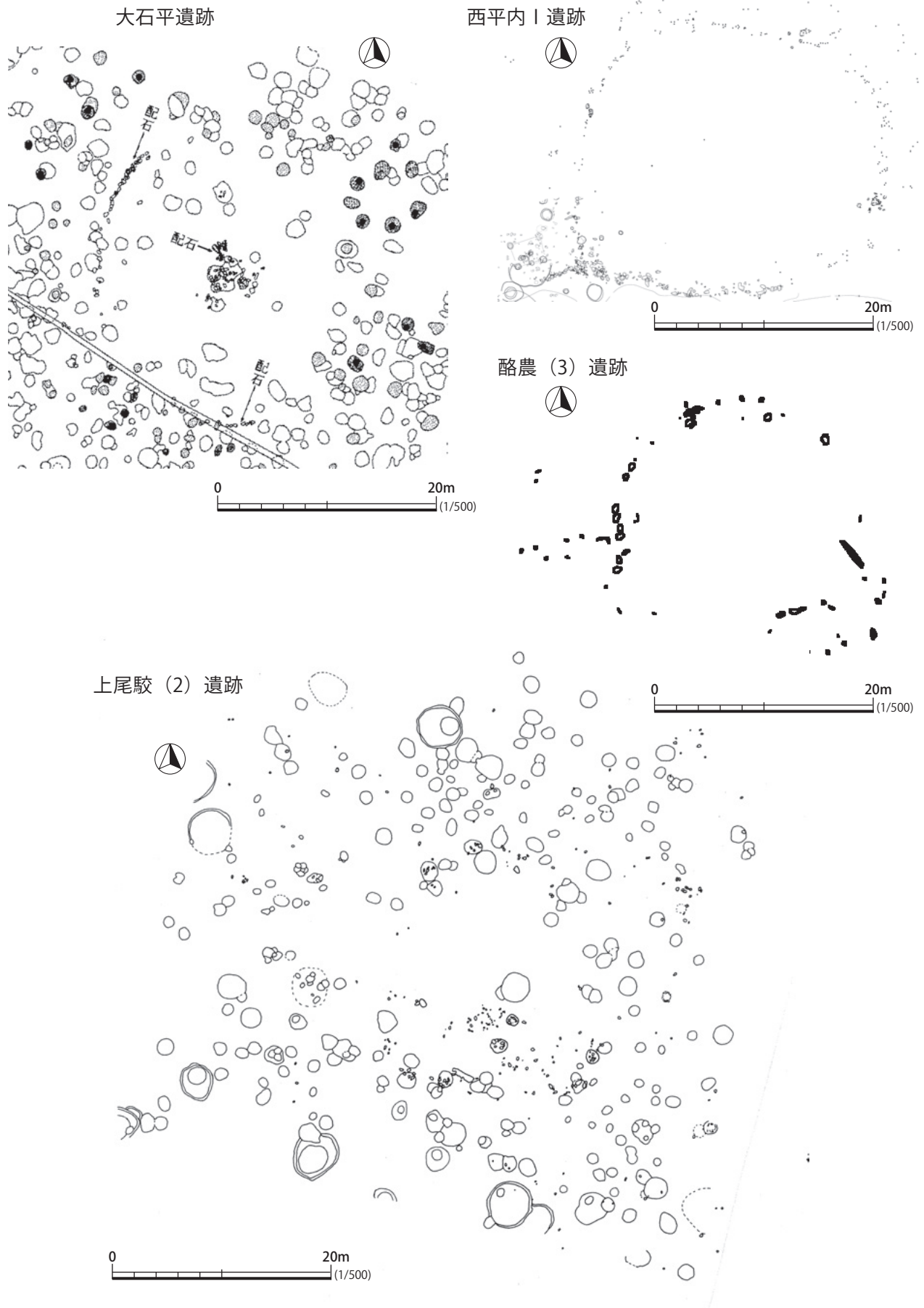


図6 太平洋側の環状列石

このうち、在家平、酪農（12）の2基は、環状列石として報告されているが（江坂1953；村越1996）、詳細な図面を確認することができないため、分類対象としない。また、札地の1基は、清水潤三（1958）によると、配石との共伴関係が確かな、時期比定可能な土器片がない。時期の認定が難しいため、これも対象とすることを控える。したがって、分析対象となるのは計14基である（図2～6）。

各分類の内訳は、以下の通りである。

1a類（9基）：小牧野（1基）、大湯環状列石（2基）、伊勢堂岱（4基）、酪農（3）（1基）、大石平（1基）

1b類（1基）：西平内I（1基）

2類（2基）：稲山（1基）、高屋館（1基）

3類（2基）：太師森（1基）、上尾駁（2）（1基）

円環をなす2類は2基のみであり、直線的な1類が半分以上を占めている。この結果からは、すべての事例が円環をなすと言えない。

「環状列石」が造営されたのは、基本的にはⅡ期である。ただし例外として、伊勢堂岱遺跡の「環状列石C」（榎本2011）と呼称されている事例はⅠ期から造営が開始され、Ⅱ期に完成する。また、稲山遺跡、大石平遺跡、西平内I遺跡の3基は、不明瞭であるが、Ⅱ期に利用されたのは確かだとみられる。いずれの事例においても、県史編年1～3期に該当する土器が共伴しているためである。さらに、西平内I例は、放射性炭素年代測定結果からも、Ⅱ期の遺構であることが示唆されている。

5. 分析結果と考察

5-1. 「環状列石」の成立過程

青森県域の「環状列石」は、形態が多様であり、すべてが円環をなさないため、その系譜を単一の起源に求めるのは難しい。南方からの影響や、在地的な要素²⁾などが、複合して成立したように見える。阿部昭典（2008ほか）は、土器型式や柄鏡型敷石住居など、複数の要素の伝播と関連しながら、「環状列石」が南方から東北地方北部に広がったと述べている。Ⅰ期は大木10式の影響が強い土器群から独自色の強い十腰内I式へと変容する過渡期である（鈴木2001）。よって阿部が述べる通り、複数回に渡る大木系土器の受容と関連して、青森県域に「環状列石」が広がった可能性はありうる。

「環状列石」に影響を与えた在地的な要素としては、「石棺墓」³⁾が注目されている。鈴木克彦（2010）は、「石棺墓」など、一系統では説明できない多様な配石墓

が複合して、「環状列石」に収斂したと述べている⁴⁾。氏の指摘の通り、直線的な形状を呈する1類が多数を占める「環状列石」が、津軽地域にあった、「石棺墓」の直線的な遺構配置（図7）から影響を受けた可能性がある。

また、青森県域では御所野遺跡の「環状集落」（菅野・久保田編2015）や、縄文時代中期の「列状集落」（小林・小島2001）など、多様な集落構造がみられる。この集落構造の多様性が、「環状列石」の多様性に繋がっている可能性もある。

一方、小林克（2007）が、道央のモンガクB遺跡（北海道余市郡仁木町）における環状配石土坑墓群の存在に注目し、北海道に環状列石の起源が求められる可能性を示唆している。ただ、青森県域における「環状列石」の成立に北海道からの影響がどの程度あったのかはまだ不透明であり、今後の検討が必要となる。

5-2. 「環状列石」の形態

「環状列石」14基のうち、9基が1a類、2基が1b類、2基が2類、2基が3類であり、直線的な形状である1類に偏っていることから、青森県域の「環状列石」がすべて円環をなさないことがわかる。むしろ、青森県域の「環状列石」は、直線的に配石することを意識して造営されている。上述したように、これは「石棺墓」の直線的な配置や、「列状集落」や「環状集落」などの多様な集落構造が影響を与えた可能性が考えられる。

「環状列石」の構成については、児玉大成（2015）と宮尾亨（2007）が議論している。児玉は、小牧野遺跡の「環状列石」の造営にかかった仕事量を推定し、刃ごとに造営されたと想定している。宮尾は、造営期間の推定と配石の規則性から、「環状列石」を、発掘調査の結果確認されているような、円環をなす完成形のみで捉えることに疑義を示している。また、石坂茂（2002ほか）の「弧状列石」の概念は、「環状列石」が必ずしも円環を指向せず、直線や曲線が複数集まった集合体である可能性を考慮すべきであることを示唆している。

また、南部地域の時期がやや先行する下村B遺跡（図8）や館石野I遺跡では、直線的な列石を中心に配石群が広範囲に及ぶ様子が見てとれる。南部地域は「環状列石」が比較的少ない地域でもあるため、より直線への指向が強いこれらの事例も、「環状列石」的な役割を持っていた可能性がある。それゆえに、これらの遺構については、一定の空間を囲う意図こそ読み取れないものの、環状列石に準ずる遺構として包括的に検討されるべきであろう。

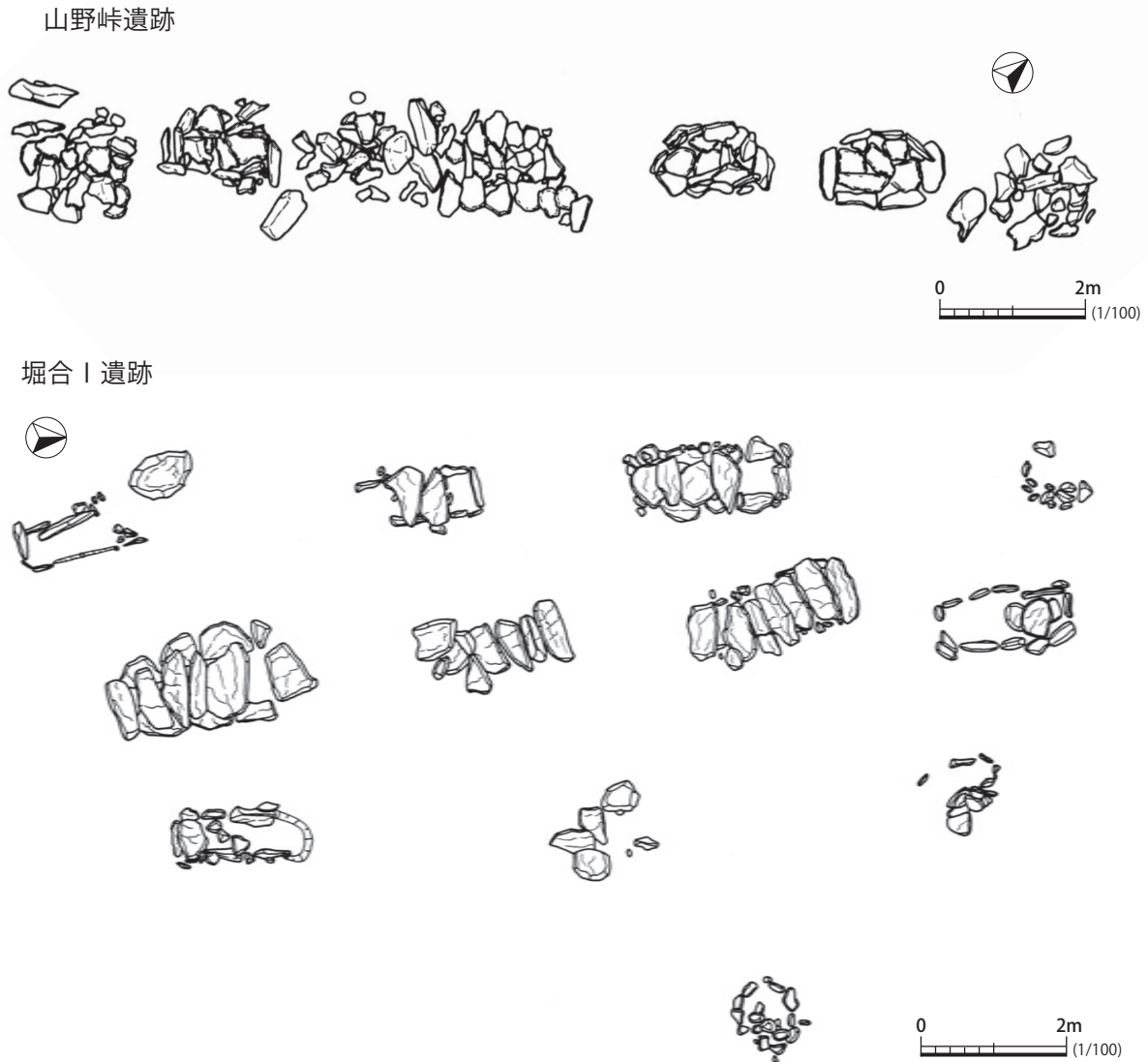


図7 津軽地域の石棺墓

5-3. 「環状列石」の性格

集落と共伴しない環状列石は、小牧野遺跡、太師森遺跡、稲山遺跡の3基で、いずれも津軽地域に分布する。これまでは、集落と共伴しないことが青森県の「環状列石」の特徴とされることが多かった。しかし実際には、これは津軽地域のみにおいて認められる特徴である。津軽地域では、Ⅰ期に直線状に配置された「石棺墓」が堀合Ⅰ遺跡や山野峠遺跡で集落外に造営され、Ⅱ期に「石棺墓」が減少し「環状列石」が出現する。よって津軽地域では、直線状に配置された「石棺墓」に類似するものとして「環状列石」が受容されたため、集落外に広場的な空間を構築するようになったとも考えられる。

集落と共伴する「環状列石」は、米代川流域と太平洋側（上北・下北と南部）にある。米代川流域の「環状列石」は、伊勢堂岱遺跡と大湯環状列石において、魚鱗状に隣接する点に特徴がある。米代川流域の事例

を議論するにあたって重要なのは、これらの「環状列石」群を個々のものとして取り扱い、それぞれ環状を呈するものとして単純にみてよいのか、ということである。米代川流域の「環状列石」は、独立して存在する高屋館例を除くと、すべて直線的な形状の1a類である。それらが複数連なっていることからすると、伊勢堂岱遺跡、大湯環状列石それぞれにおいて、複数の環状列石を一体的に捉えるのが適切であろう。この見方に従うと、伊勢堂岱遺跡と大湯環状列石は、遺跡全体が直線的な配石により制御されているといえる。つまり、米代川流域における「環状列石」は、北関東・中央高地の事例のような、環状集落の中央広場を囲う役割を持たない。遺跡全体を配石により制御し、広場的な空間を構築する役割を持ったとも考えられる。

太平洋側の「環状列石」4基は、礫が環状に巡りきらなかつたり、外側に直線状の列石が付属したりし、単純な環状構造とはならない。よって、米代川流域と

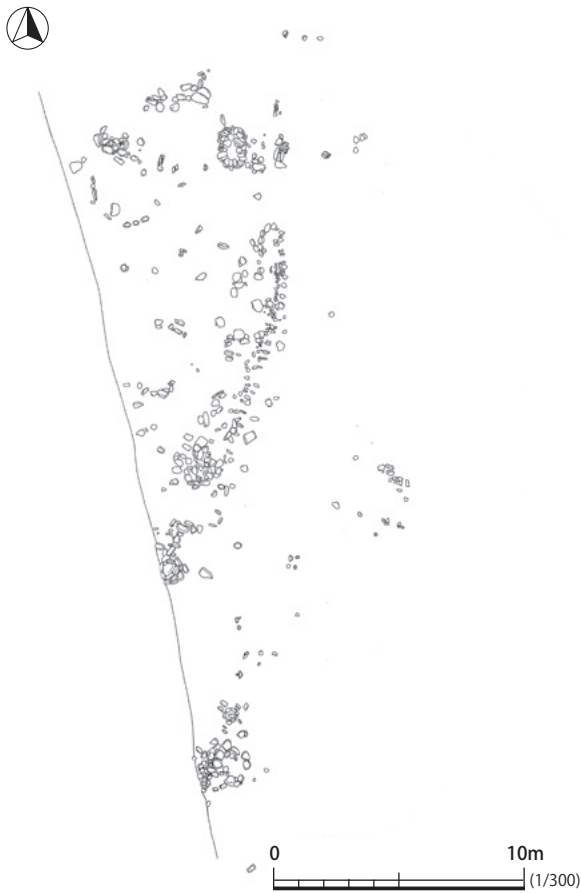


図8 下村B遺跡C・D区配石遺構群

同様に、小規模ではあるが礫により空間が制御されていた可能性がある。

南部地域には、I期（下村B遺跡（図7）・館石野I遺跡）に、直線的な列石を中心に、配石遺構群が広範囲に及ぶ事例がある。II期は、やや小規模であるが「小牧野式」の礫配置をもつ、水上遺跡の大型配石遺構がある。また南部地域における確実な「環状列石」は、他地域に比べて少ない。そのことを踏まえると、下村B遺跡や館石野I遺跡でも、直線的な配石により空間を制御し、空間構築がなされた可能性がある。

以上のことから、青森県域の「環状列石」は総じて、配石により空間を制御することで、広場的な空間⁴⁾を構築するという役割を持っていたと考えることができる。

6. 結論

以上の検討結果を踏まえ、青森県域における「環状列石」の成立の仕方とその特徴についてまとめる。

まず、青森県域の「環状列石」は、南方からの影響や在地的な要素など、複合的な要因により成立した可能性が高い（図9）。このことは、「環状列石」の形態が多様であることにより裏付けられる。

また、「環状列石」は直線的に配石することが意識されている。このことは、I期の在地における「石棺墓」の直線的な配置や多様な集落構造との関連性を示している。さらに、直線的な配石により空間が制御され、広場的な空間が構築されたと考えることに、一定の蓋然性が見いだせる。空間を構築する方法には地域差がある。津軽地域では直線状配置の「石棺墓」の影響を強く受けたため、集落と共伴せずに広場的な空間が構築された。米代川流域、太平洋側では集落と共伴し、配石により空間が制御された。米代川流域では、複数の「環状列石」が魚鱗状に配置されている。太平洋側では、4例中3例で礫が環状に巡りきらず、2例で外側に直線状の列石が付属する。このことは、環状集落の中央広場とは異なる空間が構築されていたことを示す⁵⁾。さらに、「環状列石」が少ない南部地域では、直線的な配石を中心に空間が制御されている。この場合、「環状列石」と同様に、広場的な空間を構築する役割を果たす。

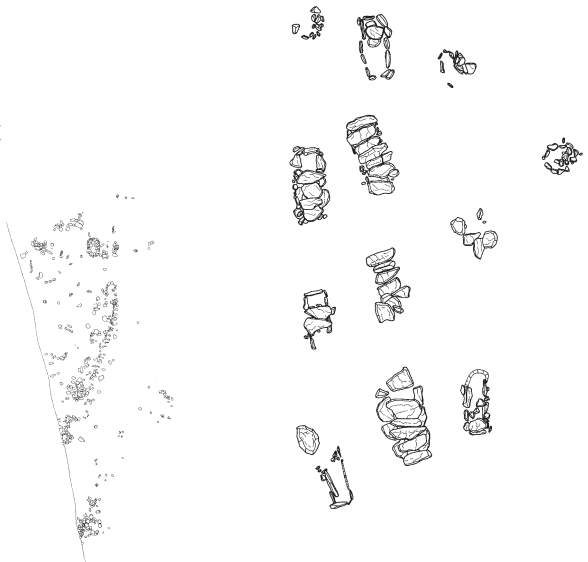
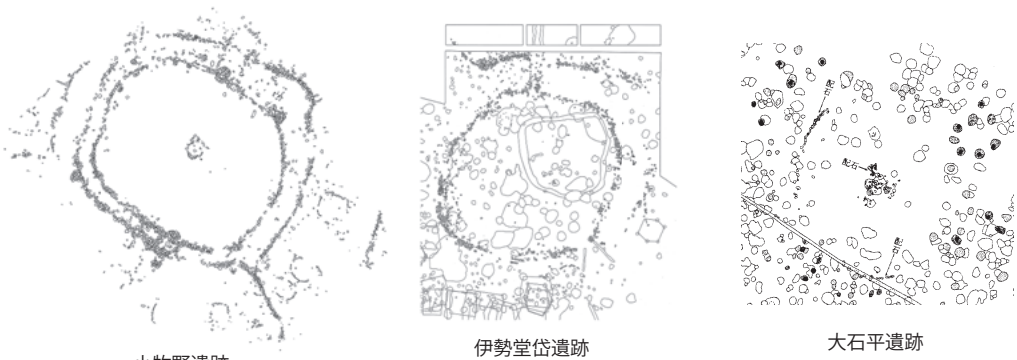
ここまで述べたように、青森県域では、環状列石として従来認定されてこなかった事例のなかにも、「環状列石」と同様の役割を持ちうるものがある⁶⁾。したがって、環状構造の有無のみから、縄文時代後期前半における大型の配石遺構を区別することはできない。環状列石として認定されてきた遺構と、直線的な配石を中心に空間が制御され、同じく広場的な空間を構築する遺構とを合わせて議論するのが適切ではないか。ただし、こうした包括的な議論が他地域でも適用可能なか否かについては、今後の検討が必要となる。

7. 今後の展望と課題

本稿では、青森県域の事例と北海道の事例の関係⁷⁾について扱っておらず、津軽海峡を挟んだ影響関係の有無や大きさについて、検討していかなければならない。また、「環状列石」と集落との関係性についても議論の余地がある。阿部昭典（2011）が指摘するように、集落の範囲をどのように捉えるかによって、「環状列石」の見方も変わってくる。「環状列石」と周辺集落との関係性を明らかにすることを通し、環状列石の造営に関わった集団がどの程度存在するのか、さらには「分散型集落」という捉え方が妥当であるかなどを今後検討していきたい。

謝辞

本稿は、2022年度に東京大学文学部に提出した卒業論文を発展、再構築したものである。執筆に際しては、指導教員の福田正宏先生をはじめ、考古学研究室の根岸洋先生、森先一貴先生、新井才二先生、常呂実

<p>中期末葉以前</p>	<p>他地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南方における「環状列石」の成立 	<p>青森県域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「列状集落」や「環状集落」がみられる
<p>I期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・津軽地域で列状に配置された「石棺墓」が出現 ・南部地域で直線的な配石を中心に配石遺構群が配置された空間が出現 ・一部の「環状列石」の造営が開始される <p>左：下村B遺跡 右：堀合I遺跡</p> 	
<p>II期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域差を持ちつつ「環状列石」が成立  <p>小牧野遺跡 伊勢堂岱遺跡 大石平遺跡</p>	
<p>III期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「環状列石」がみられなくなる 	

図面の縮尺は任意

図9 青森県域における「環状列石」の展開

習施設の太田圭先生のご指導を賜った。また、以下の個人・機関のご指導・ご協力を得た。末筆ではありませんが、お礼申し上げます。

安藤広道（慶應義塾大学）、折登亮子（青森県埋蔵文化財調査センター）、上條信彦（弘前大学）、児玉大成（青森市教育委員会）

（敬称略、50音順）

註

- 1) 水上（2）遺跡の巨石掘方C-12（8,322 yr BP、秦ほか2017）など、明らかに外れた値のものは除外している。
- 2) ここで言う「在地的な要素」とは、I期の時点で青森県域に存在する、もしくは存在した要素のことを指す。各要素の起源については本稿では検討不足であるため、改めて議論する必要がある。
- 3) 津軽地域では、敷石がないものも含めて「石棺墓」と呼称されることが多い。本稿ではこれに従い、敷石のないものも併せて「石棺墓」と呼称する。なお、鈴木克彦（2010）は、「石棺墓」の起源を北上川流域の樺山遺跡（岩手県北上市）に求めている。また、大工原豊・林克彦（1995）は、東北地方北部の「石棺墓」が群馬県域の「配石墓」に影響を与えたと述べている。配石墓の複雑な広がり、縄文時代後期前半のダイナミズムの一端を示す可能性がある。
- 4) ここで言う「広場的な空間」とは、多くの場合儀礼的な空間と解釈される。したがって、小杉康（2014）の「墓地系大規模記念物」という見方とは矛盾しない。
- 5) 酪農（3）遺跡について、環状列石と同時期に、環状列石の内側にもフラスコ状土坑が多く構築されていることから、広場的な役割を果たさなかった可能性が指摘されている（長谷川・折登2023）。
- 6) なお、縄文時代後期前半の青森県域には、「環状列石」を含めた配石遺構が、管見に触れた限りで108遺跡708基存在する（付図1、付表1～5）。配石遺構はII期に増加するが、この現象は「環状列石」の隆盛と関係している可能性がある。太師森遺跡や小牧野遺跡、大湯環状列石などの多くの環状列石で、複数の配石遺構が「環状列石」に共伴するためである。なお、水上（2）遺跡「石棺墓A群」など、一体の遺構として扱うべきだと考えられるものは1基として数えた。しかし、一体の遺構と認める明確な基準を設けられなかったため、数には多少変動が生じる可能性がある。
- 7) 小杉康や児玉大成が積極的に議論している。小杉（2013）は、機能や形態的特徴をそれぞれ1つの属性として扱い、青森県域と道南・道央の環状列石や盛土遺構を包括的に分析している。児玉（2006）は、小牧野遺跡や水上遺跡でみられる「小牧野式」の礫配置が、鷺ノ木遺跡（北海道茅部郡森町）でみられ、時期的な関係から水上遺跡、小牧野遺跡から鷺ノ木遺跡へと技術が伝わったと指摘している。

引用文献

- 阿部昭典 2008 『縄文時代の社会変動論』アム・プロモーション
阿部昭典 2011 「東北北部における環状列石の受容と集落構造：『景観論』の確立にむけて」『古代文化』63（1）：24-44
阿部昭典 2018 「環状列石の出現に関する研究（1）」『縄文

- 時代』29：55-76
阿部昭典 2019 「環状列石の出現に関する研究（2）」『縄文時代』30：23-52
阿部昭典 2021a 「環状列石の出現に関する研究（3）」『縄文時代』32：23-52
阿部昭典 2021b 「青森県域の環状列石成立について」『岩手県考古学会第52回研究大会資料集：環状列石の誕生』岩手県考古学会、1-12
阿部義平 1968 「配石墓の成立」『考古学雑誌』54（1）：77-96
石坂 茂 2002 「縄文時代中期末葉の環状集落の崩壊と環状列石の出現」『群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』20：71-101
石坂 茂 2004 「関東・中部地方の環状列石：中期から後期への変容と地域的様相を探る」『群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』22：51-94
石坂 茂 2007 「環状列石（関東・中部地方）」小杉康ほか編『縄文時代の考古学11 心の信仰』同成社、158-170
上野佳也 1984 「配石遺構についての一考察」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』3：27-40
江坂輝弥 1953 「本州における類似の遺跡」斎藤忠ほか編『大湯町環状列石』文化財保護委員会、132-141
江坂輝弥 1967 「青森市久栗坂山野峠遺跡調査略報」『月刊考古学ジャーナル』13：12-13
江坂輝弥 1971 「縄文時代の配石遺構について」『北奥古代文化』3：9-13
江坂輝弥 1985 「配石遺構とは」『月刊考古学ジャーナル』254：7-10
折登亮子・長谷川大旗 2022 「酪農（3）遺跡：下北半島の環状列石と集落」『月刊考古学ジャーナル』769：25-28
笠井新也 1918 「陸奥國発見の石器時代の墳墓に就いて」『考古学雑誌』9（2）：1-21
金子昭彦 2020 「十腰内I式土器文化における配石の意味」『岩手考古学』31：1-18
工藤竹久 2001 「札地遺跡」東通村史編集委員会編『東通村史 歴史編I』：657-661、東通村
國木田 大・吉田邦夫・児玉大成 2009 「小牧野遺跡における土器附着炭化物の¹⁴C年代測定」『青森県考古学』17：21-26
小杉 康 2001 「巨大記念物の謎を探る」野村崇・宇田川洋編『新北海道の古代1』北海道新聞社、182-201
小杉 康 2014 「葬墓祭制と大規模記念物」泉拓良・今村啓爾編『講座日本の考古学4：縄文時代下』青木書店、439-483
児玉大成 2005 「隠里ストーンサークルについて：故 寺田徳穂氏の資料を中心に」葛西 励先生還暦記念論文集刊行会編『北奥の考古学』：63-78
児玉大成 2009 「縄文時代における環状列石の石材運搬について」『森県埋蔵文化財調査センター研究紀要』14：1-14
児玉大成 2013 「2 土器の編年」青森県史編さん考古部会編『青森県史 資料編 考古2』青森県、8-21
児玉大成 2015 「北東北の環状列石」安田喜憲・阿部千春編『津軽海峡圏の縄文文化』雄山閣、145-164
小林謙一 2019 『縄文時代の実年代講座』同成社
小林達雄編 2002 『縄文ランドスケープ』ジョーモネスクジャパン機構
小林 克 2007 「環状列石（東北・北海道地方）」小杉康ほか編『縄文時代の考古学11 心の信仰』同成社、145-157

- 小林 克・小島朋夏 2001 「非環状集落」『発表要旨 縄文時代集落研究の現段階』縄文時代文化研究会, 73-77
- 駒井和愛 1950 「日本における巨石記念物」『考古学雑誌』36(2): 7-17
- 駒井和愛 1952 「日本における巨石記念物 續々々」『考古学雑誌』38(5・6): 22-34
- 斎藤 忠 1971 「大湯環状列石と日本の縄文時代の類似遺跡について」『北奥古代文化』3: 2-7
- 斎藤 忠 1985 「配石遺構: 特に環状列石について」『月刊考古学ジャーナル』254: 2-6
- 佐々木藤雄 2002 「環状列石と縄文式階層社会」安斎正人編『縄文社会論: 下』同成社, 3-50
- 清水潤三 1958 「青森県下北郡尻屋遺跡」『日本考古学年報』7: 34-35
- 鈴木克彦 2001 『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣
- 鈴木克彦 2009 「東北地方の縄文集落の社会組織と村落」鈴木克彦・鈴木保彦編『縄文集落の多様性Ⅰ: 集落の変遷と地域性』雄山閣, 51-94
- 鈴木克彦 2010 「青森県域の縄文集落の葬墓制」雄山閣編輯部編『縄文集落の多様性Ⅱ: 葬墓制』雄山閣, 85-124
- 鈴木克彦・岩淵宏子 2004 「弘前市十腰内2遺跡の発掘報告」『青森県立郷土館調査研究年報』28: 1-36
- 大工原 豊・林 克彦 1995 「配石墓と環状列石: 群馬県天神原遺跡の事例を中心として」『信濃』47(4): 32-54
- 橋 善光 1971 「田名部酪農5号配石遺構調査概報」『北奥古代文化』3: 14-16
- 西村正衛・桜井清彦 1953 「青森県森田村附近の遺跡調査概報」『古代』10: 1-18, 早稲田大学考古学会
- 長谷川大旗・折登亮子 2023 「酪農(3)遺跡」阿部昭典編『考古調査ハンドブック24 環状列石』ニュー・サイエンス社: 145-155
- 長谷部言人 1919 「陸前国細浦上の山貝塚の環状列石」『人類学雑誌』345: 159-161
- 宮尾 亨 2007 「環状列石の造営」小杉康ほか編『縄文時代の考古学11 心の信仰』同成社, 133-144
- 村越 潔 1996 「青森県の配石遺構: 特に環状列石について」遠藤正夫ほか編『小牧野遺跡発掘調査報告書』青森市教育委員会: 255-261
- 渡瀬莊三郎 1886 「北海道後志國に存する環状石籬の遺跡」『人類学会報告』2: 30-33

発掘調査報告書一覧

青森県

- 浅井智晴・齋藤 正・加藤 渉編 2018 『内田(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書592
- 一町田 工・畠山 昇編 1984 『一ノ渡遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書79
- 市川金丸ほか編 1987 『弥栄平(4)(5)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書106
- 今井二三男編 1981 『高長根山遺跡』弘前市教育委員会
- 宇部瑞穂編 2021 『史跡是川石器時代遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書177
- 遠藤正夫ほか編 1986 『大石平遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書97
- 遠藤正夫ほか編 1987 『大石平遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調

- 査報告書103
- 遠藤正夫ほか編 1996 『小牧野遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書30
- 大田原 潤・野村信生編 2000 『餅ノ沢遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書278
- 小笠原善範・村木 淳編 1991 『風張(1)遺跡Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書42
- 小田桐勝昭ほか編 2002 『平成13年度 浪岡町文化財紀要Ⅱ』浪岡町文化財紀要2
- 小野貴之編 2003 『稲山遺跡 発掘調査報告書Ⅲ』青森市埋蔵文化財調査報告書66
- 小野貴之・蛭名 純編 2002 『稲山遺跡 発掘調査報告書Ⅱ』青森市埋蔵文化財調査報告書62
- 小野貴之・児玉大成編 2004 『稲山遺跡 発掘調査報告書Ⅴ』青森市埋蔵文化財調査報告書72
- 小野貴之ほか編 2001 『稲山遺跡 発掘調査報告書Ⅰ』青森市埋蔵文化財調査報告書56
- 小山浩平・岡本 洋・小田川哲彦編 2012 『砂子瀬遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書513
- 葛西 励編 1974 『青森県平賀町唐竹地区埋蔵文化財発掘調査報告書: 甕棺墓・石棺墓・土壙墓』平賀町教育委員会
- 葛西 励編 1983 『山野峠遺跡』青森市の埋蔵文化財11
- 葛西 励・高橋 潤編 1981 『堀合Ⅰ号遺跡』平賀町埋蔵文化財報告書10
- 葛西 励・高橋 潤編 1983 『木戸口遺跡』平賀町埋蔵文化財報告書12
- 葛西 励ほか編 2003 『坊主沢遺跡発掘調査報告書』小泊村文化財調査報告3
- 葛城和穂ほか編 2014 『砂子瀬遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書543
- 木村鉄次郎ほか編 1992 『沢堀込遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書144
- 工藤清泰・高杉博章編 2001 『平成12年度 浪岡町文化財紀要Ⅰ』浪岡町文化財紀要1
- 工藤竹久ほか編 1986 『八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書17
- 児玉大成編 1998 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』青森市埋蔵文化財調査報告書40
- 児玉大成編 2006 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅸ』青森市埋蔵文化財調査報告書85
- 児玉大成・蛭名 純編 2003 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』青森市埋蔵文化財調査報告書70
- 児玉大成・田中美鈴・辻村春香編 2000 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅴ』青森市埋蔵文化財調査報告書50
- 児玉大成・横山智子編 2001 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅵ』青森市埋蔵文化財調査報告書55
- 齋藤 岳・成田滋彦・大平哲世編 2014 『大川添(4)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書542
- 齋藤 正ほか編 2014 『大川添(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書544
- 佐々木雅裕・相馬信吉編 1998 『根の山遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書228
- 神 康夫編 2002 『餅ノ沢遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書333
- 鈴木克彦編 1986 『花巻遺跡』黒石市埋蔵文化財調査報告4

鈴木克彦編 1988 『花巻遺跡』黒石市埋蔵文化財調査報告書7
鈴木克彦ほか編 1993 『野場(5)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書150
瀧澤幸長編 1998 『館町Ⅱ遺跡』青森県三戸郡倉石村埋蔵文化財調査報告書4
滝本 学編 2005 『太師森遺跡』平賀町埋蔵文化財報告書37
滝本 学・長尾智寿編 2007 『太師森遺跡』平川市埋蔵文化財調査報告書2
田島一雄・長尾正義編 1992 『小田内沼(1)・(4)遺跡』三沢市埋蔵文化財調査報告書10
橋 善光 1973 『札地遺跡調査カード』青森県埋蔵文化財調査センター
中嶋友文ほか編 2009 『砂子瀬遺跡・水上(3)遺跡・水上(4)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書466
中村哲也編 2020 『酪農(3)遺跡—縄文時代後期の集落と環状列石—』青森県埋蔵文化財調査センター
中村哲也・野村信生編 1998 『西張(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書233
中村哲也・宮嶋豊編 2009 『山田(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書469
成田滋彦・浅田智晴・斉藤慶史編 2010 『扇田(2)遺跡 扇田(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書492
成田滋彦・奈良昌毅・中嶋友文編 1991 『富ノ沢(1)・(2)遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書133
成田滋彦ほか編 1988 『上尾駱(2)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書115
成田譲治・岡田康博・坂本洋一編 1984 『弥栄平遺跡(2)発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書8
成田譲治ほか編 1985 『大石平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書90
新山隆男・荒谷伸郎編 2016 『川原平(6)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書567
新山隆男ほか編 2007 『三内遺跡Ⅱ 三内丸山(9)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書434
西村広経編 2016 『新井田古館遺跡第30地点』八戸市埋蔵文化財調査報告書154
秦 光次郎ほか編 2017 『水上(2)遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書575
福田友之編 1986 『上牡丹森』大鰐町文化財調査報告書1
三浦圭介ほか編 1986 『弥栄平(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書98
村木 淳・小笠原善範編 2001 『牛ヶ沢(4)遺跡Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書89
村木 淳・横山寛剛編 2010 『湯ノ沢遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書127
村木 淳ほか編 2010 『八戸市内遺跡発掘調査報告書27』八戸市埋蔵文化財調査報告書124
村越 潔ほか編 1985 『長坂1遺跡発掘調査報告書』黒石市埋蔵文化財調査報告書15
横山寛剛編 2020 『史跡は川石器時代遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書175

岩手県

小野寺正之・北村忠昭編 2002 『上水沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書391

菊池徹夫ほか編 1997 『館石野1遺跡発掘調査報告書 縄文時代列石遺構の調査』早稲田大学文学部考古学研究室・岩手県田野畑村役場
菊池利和ほか編 1988 『馬立Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書122
木戸口俊子編 2007 『川口Ⅰ遺跡第2次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書490
菅野紀子・久保田滋子編 2015 『御所野遺跡Ⅴ』一戸町文化財調査報告書70
嶋 千秋・鈴木隆英編 1985 『曲田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県埋蔵文化センター文化財調査報告書87
嶋 千秋ほか編 1982 『扇畑Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県埋蔵文化センター文化財調査報告書39
嶋 千秋ほか編 1983 『上村遺跡・下村A遺跡・下村B遺跡発掘調査報告書』岩手県埋蔵文化センター文化財調査報告書56
杉沢昭太郎ほか編 2021 『鹿糠浜Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書727
須原 拓・野中祐貴編 2021 『北玉川遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書728
瀬川司男ほか編 1980 『松尾村長者屋敷遺跡(Ⅰ)』岩手県埋蔵文化センター文化財調査報告書12
千田政博編 2013 『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書1
千田政博編 2020 『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書9
高木 晃・工藤利幸編 1998 『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書：第6次～第8次』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書273
高田和徳・中村明史編 2006 『御所野遺跡Ⅲ』一戸町文化財調査報告書53
高田和徳ほか編 2006 『大平遺跡』一戸町文化財調査報告書56
高橋与右エ門編 1986 『水神遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書96
田鎖壽夫・斉藤邦雄編 1995 『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書：第2次～第5次調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書225
溜 浩二郎編 1996 『長倉Ⅳ・長倉Ⅴ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書231
千葉啓蔵編 1993 『二子貝塚』久慈市埋蔵文化財調査報告書16
千葉啓蔵編 1997 『田高Ⅰ遺跡発掘調査報告書』久慈市埋蔵文化財調査報告書22
鳥居達人・佐々木清文編 2000 『矢神遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書339
濱田 宏ほか編 2017 『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書4
星 雅之編 2008 『力持遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書510
星 雅之編 2019 『力持遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書694

秋田県

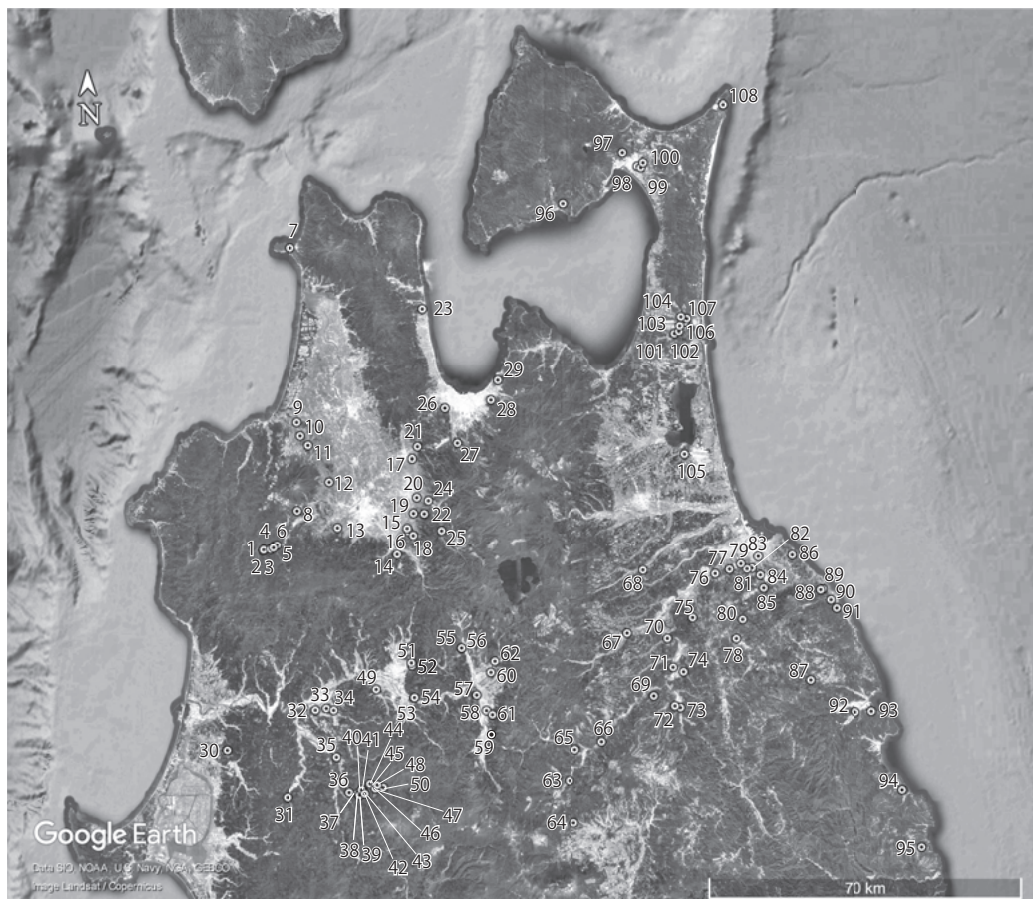
秋元信夫・花海義人編 1993 『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書9』鹿角市文化財調査資料45

秋元信夫・花海義人編 1999 『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書15』鹿角市文化財調査資料63
 秋元信夫ほか編 1986 『大湯環状列石周辺遺跡発掘調査報告書2』鹿角市文化財調査資料31
 秋元信夫ほか編 1989 『大湯環状列石周辺遺跡発掘調査報告書5』鹿角市文化財調査資料35
 五十嵐一治編 1999 『伊勢堂岱遺跡』秋田県文化財調査報告書293
 岩見誠夫ほか編 1982 『東北縦断自動車道発掘調査報告書Ⅲ』秋田県文化財調査報告書89
 宇田川浩一ほか編 2008 『地蔵岱遺跡』秋田県文化財調査報告書434
 榎本剛治編 2011 『史跡伊勢堂岱遺跡発掘調査報告書』北秋田市埋蔵文化財調査報告書13
 小畑 巖編 1994 『曲田地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ』秋田県文化財調査報告書246
 利部 修・和泉昭一編 1990 『諏訪台C遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書196
 河田弘幸編 2000 『桐内C遺跡』秋田県文化財調査報告書299
 栗沢光男・武藤祐浩編 1988 『中小坂遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書177
 児玉 準・牧野賢美・加藤 竜編 2002 『桐内A遺跡』秋田県文化財調査報告書334
 児玉 準ほか編 1983 『東北縦断自動車道発掘調査報告書Ⅵ』秋田県文化財調査報告書99
 小林稔幸編 2003 『碎瀝遺跡』秋田県文化財調査報告書349
 斎藤 忠ほか編 1953 『大湯町環状列石』埋蔵文化財調査報告2,文化財保護委員会
 櫻田 隆・長澤和則編 1995 『曲田地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ』秋田県文化財調査報告書254
 櫻田 隆・能登谷宣康編 1990 『竜毛沢館跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書188
 柴田陽一郎・小畑 巖編 1990 『西山地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ』秋田県文化財調査報告書198
 菅野美香子編 2011 『漆下遺跡』秋田県文化財調査報告書464
 菅野美香子・榮 一郎・三浦俊成編 2006 『深渡遺跡』秋田県文化財調査報告書407
 菅野美香子ほか編 2005 『日廻岱B遺跡』秋田県文化財調査報告書394
 杉瀨 馨編 1999 『深渡遺跡』秋田県文化財調査報告書286
 高橋 学編 1994 『白坂遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財

調査報告書244
 富樫泰時・田村 栄・藤木幸雄編 1979 『塚の下遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書61
 永瀬福男ほか編 1984 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅱ』秋田県文化財調査報告書120
 袴田道郎ほか編 2015 『小勝田館跡』秋田県文化財調査報告書500
 藤井安正編 1984 『天戸森遺跡』鹿角市文化財調査資料26
 藤井安正編 2005 『特別史跡大湯環状列石(1)』鹿角市文化財調査資料77
 藤井安正・赤坂朋美・工藤 海編 2017 『特別史跡 大湯環状列石 総括報告書』鹿角市文化財調査資料110
 藤井安正・三浦貴子編 2009 『特別史跡 大湯環状列石 発掘調査報告書(25)』鹿角市文化財調査資料96
 細田昌史編 2003 『平成13年度埋蔵文化財発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書267
 細田昌史編 2007 『橋場岱A・C・G遺跡』北秋田市埋蔵文化財調査報告書5
 細田昌史編 2009 『二重鳥B遺跡』北秋田市埋蔵文化財調査報告書11 袴田道郎ほか編 2015 『小勝田館跡』秋田県文化財調査報告書500
 本田嘉之・舟木義勝・櫻田 隆編 1999 『小袋岱遺跡』秋田県文化財調査報告書285
 牧野賢美・吉田英亮編 2001 『桐内B遺跡・桐内D遺跡』秋田県文化財調査報告書318
 三浦貴子編 2012 『秋田県鹿角市遺跡詳細分布調査報告書』鹿角市文化財調査資料103
 谷地 薫・藤岡光男編 1994 『桂の沢遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書247
 谷地 薫ほか編 2010 『森吉家ノ前A遺跡』秋田県文化財調査報告書453
 築瀬圭二ほか編 2014 『藤株遺跡(第二次)』秋田県文化財調査報告書494
 山田祐子・宇田川浩一・巴 亜子編 2010 『下野Ⅱ遺跡』秋田県文化財調査報告書450
 山本起嗣ほか編 2006 『森吉家ノ前A遺跡』秋田県文化財調査報告書409

図版出典

図1, 付図1: Google Earthを用いて筆者作成、図2~9: 報告書に記載の遺構平面図をもとに筆者作成、酪農(3)遺跡の環状列石は再トレース済、表1, 付表1~5: 筆者作成



付図1 青森県域における配石遺構の分布

付表1 配石遺構を有する遺跡一覧

	遺跡名	住所	I期	II期	III期	環状列石	配石遺構	文献
1	大川添(4)	青森県中津軽郡西目屋村川原平大川添地内		○		0	2	齋藤岳・成田滋・大平2014
2	大川添(3)	青森県中津軽郡西目屋村川原平大川添地内	△	△	△	0	22	齋藤正ほか2014
3	川原平(6)	青森県中津軽郡西目屋村川原平宮元地内	△			0	1	新山・荒谷2016
4	砂子瀬	青森県中津軽郡西目屋村砂子瀬宮元地内	△	△	△	0	9	中嶋ほか2009, 小山・岡本・小田川2012, 葛城ほか2014
5	水上(2)	青森県中津軽郡西目屋村砂子瀬水上地内	○	△	△	0	20	秦ほか2017
6	水上(4)	青森県中津軽郡西目屋村砂子瀬水上地内	△	△	△	0	1	中嶋ほか2009
7	坊主沢	青森県北津軽郡中泊町小泊坊主沢地内		△	△	0	1	葛西ほか2003
8	根の山	青森県弘前市百沢山田2-1.35-5	△	△	△	0	9	佐々木・相馬1998
9	ヤブシ長根	青森県つがる市森田町大館八重菊地内		○		0	1	西村・桜井1953
10	餅ノ沢	青森県西津軽郡鯉ヶ沢町建石石神44-2	○	△	△	0	11	大田原・野村2000, 神2002
11	十腰内(2)	青森県弘前市十腰内猿沢78-40	△	△	△	0	1	鈴木・岩淵2004
12	高長根山	青森県弘前市中別所向野地内	△	△	△	0	2	今井1981
13	扇田(2)	青森県弘前市下湯川扇田157-27	△	△	△	0	2	成田滋・浅田・齊藤2010
14	上牡丹森	青森県南津軽郡大鰐町大鰐上牡丹森地内	△	△	○	0	4	福田1986
15	堀合Ⅰ	青森県平川市唐竹堀合22	○	△		0	16	葛西1974, 葛西・高橋1981
16	堀合Ⅲ	青森県平川市唐竹堀合83	△			0	5	葛西1974
17	天狗岱	青森県青森市浪岡北中野村元地内	△	△		0	1	笠井1918
18	小金森	青森県平川市唐竹小金森24-1	△	△		0	7	葛西1974
19	木戸口	青森県平川市尾崎木戸口地内	△	△	△	0	1	葛西・高橋1983
20	長坂(1)	青森県黒石市上十川柳沢115	△	○	△	0	2	村越ほか1985
21	平野	青森県青森市浪岡五本松平野地内	○			0	5	工藤清・高杉2001, 小田桐ほか2002
22	太郎森	青森県平川市新屋遠手沢地内	△	○		1	17	滝本2005, 滝本・長尾2007
23	山田(2)	青森県東津軽郡蓬田村瀬地山田522	△			0	1	中村・宮嶋2009
24	花巻	青森県黒石市花巻鷹待場62	○			0	7	鈴木1986, 1988
25	一ノ渡	青森県黒石市沖浦一ノ渡村上38	△	△		0	1	一町田・畠山1984
26	三内丸山(9)	青森県青森市三内丸山323	○			0	1	新山ほか2007
27	小牧野	青森県青森市野沢小牧野54-192外		○		1	12	遠藤ほか1996, 児玉1998, 2006, 児玉・横山2001
28	稲山	青森県青森市諏訪沢山辺地内	△	△	△	1	17	小野ほか2001, 小野・蛭名2002, 小野2003, 小野・児玉2004
29	山野峠	青森県青森市久栗坂山辺89-1	○			0	6	江坂1967, 葛西1983
30	竜毛沢館	秋田県能代市二ツ井町切字竜毛沢164	△	△		0	1	桜田・能登谷1990
31	小袋岱	秋田県北秋田郡小阿仁村大林菊桜岱27外	△	△		0	3	本田・舟木・櫻田1999
32	伊勢堂岱	秋田県北秋田市脇神5-1外	○	○	△	4	24	五十嵐1999, 榎本2011
33	小勝田館跡	秋田県北秋田市脇神館野22外	△	△	△	0	1	袴田ほか2015

遺跡名	住所	I期	II期	III期	環状列石	配石遺構	文献
34 藤株	秋田県北秋田市脇神字高森堂ノ上83-3外	○			0	1	瀬瀬ほか2014
35 白坂	秋田県北秋田市森吉浦田白坂上岱5外		△		0	1	高橋1994
36 桂の沢	秋田県北秋田市森吉根森田桂ノ沢19-2外	△	△	○	0	15	谷地・藤岡1994
37 桐内A	秋田県北秋田市森吉桐内前田5-1外		○		0	2	児玉・牧野・加藤2002
38 桐内D	秋田県北秋田市森吉桐内家ノ上川反19外	△			0	1	牧野・吉田2001
39 桐内C	秋田県北秋田市森吉桐内家ノ上ミ岱11外		○		0	10	河田2000
40 日廻岱B	秋田県北秋田市森吉日廻岱86外	○	△	△	0	13	菅野ほか2005
41 漆下	秋田県北秋田市森吉漆下外	△	△	△	0	123	菅野2011
42 二重鳥C	秋田県北秋田市森吉二重鳥93外		○		0	1	細田2003
43 二重鳥B	秋田県北秋田市森吉字二重鳥11外	△			0	1	細田2009
44 地藏岱	秋田県北秋田市森吉地藏岱74外	△	△	△	0	3	宇田川ほか2008
45 橋場岱C	秋田県北秋田市森吉橋場岱42外		△	△	0	1	細田2007
46 橋場岱A	秋田県北秋田市森吉橋場岱48外	△	△	△	0	2	細田2007
47 深渡(北秋田)	秋田県北秋田市森吉深渡家ノ前104-1外	△	△	△	0	11	杉湖1999, 菅野・榮・三浦2006
48 碎測	秋田県北秋田市森吉森吉碎測144-1外	△	△	△	0	2	小林2003
49 下野II	秋田県大館市本宮下モ野107-1	○			0	4	山田・宇田川・巴2010
50 森吉家ノ前A	秋田県北秋田市森吉森吉家ノ前145外		○	○	0	9	山本ほか2006, 谷地ほか2010
51 諏訪台C	秋田県大館市大茂内諏訪台33外	△	△	△	0	3	利部・和泉1990
52 塚の下	秋田県大館市大茂内中壠木台57-1外	△	○	△	0	2	富樫・田村・藤木1979
53 中山(大館)	秋田県大館市中山中山31-1	△	△	△	0	16	小畑1994
54 寒沢	秋田県大館市中山寒沢83-1外				0	5	櫻田・長澤1995
55 大岱II	秋田県鹿角市小坂町小坂大岱8外		△		0	5	永瀬ほか1984
56 中小坂	秋田県鹿角市小坂町小坂中小坂25-3	△	△	△	0	5	栗沢・武藤1988
57 高屋館	秋田県鹿角市花輪館ヶ沢45外		○		1	1	柴田・小畑1990, 藤井・三浦2009
58 天戸森	秋田県鹿角市花輪陳場142外	△			0	1	藤井1984
59 北の林I	秋田県鹿角市八幡平北の林65外	△			0	1	岩見ほか1982
60 大湯	秋田県鹿角市十和田大湯万座、野中堂、一本木後口		○		2	141	秋元ほか1986, 1989, 秋元・花海1993, 1999, 藤井2005, 藤井・赤坂・工藤2017
61 案内Ⅲ	秋田県鹿角市案内21-1外	△	△		0	1	児玉ほか1983
62 下内野Ⅲ	秋田県鹿角市十和田大湯下内野外				0	4	三浦2012
63 扇畑Ⅱ	岩手県八幡平市扇畑地内	△	△		0	1	嶋ほか1982
64 長者屋敷	岩手県八幡平市松尾第5地割大花森54外	△	△	△	0	1	瀬川1980
65 曲田I	岩手県八幡平市字曲田地内	△	△	△	0	5	嶋・鈴木1985
66 水神	岩手県八幡平市土沢108外	○			0	1	高橋1986
67 在家平	青森県三戸郡田子町田子下田子地内		○		1	1	村越1996
68 館町Ⅱ	青森県三戸郡五戸町倉石又重西張平地内		○		0	1	瀧澤1998
69 馬立Ⅱ	岩手県二戸市福田馬立18-15外	○			0	2	菊池ほか1988
70 川口I	岩手県二戸市金田一川口23外	△	△		0	1	木戸口2007
71 下村B	岩手県二戸市米沢下村地内	○			0	1	嶋ほか1983
72 大平(二戸)	岩手県二戸郡一戸町西法寺大平地内	△	△	△	0	1	高田ほか2006
73 御所野	岩手県二戸郡一戸町岩館御所野地内	○			0	1	菅野・久保田2015
74 矢神	岩手県二戸市福岡矢神				0	1	烏居・佐々木2000
75 水上	青森県三戸郡南部町鳥舌内水上地内	△	△		0	1	葛西・山口・児玉2004
76 西張(2)	青森県三戸郡南部町法師岡西張57-1外		△	△	0	1	中村・野村1998
77 湯ノ沢	青森県八戸市榊引湯ノ沢地内	○			0	1	村木・横山2010
78 大日向Ⅱ	岩手県九戸郡軽米町軽米地内2007未確認	△	△		0	6	田鎮・齊藤1995, 高木・工藤1998
79 丹後谷地	青森県八戸市根城丹後谷地17-1	△	△	△	0	0	工藤竹ほか1986
80 長倉Ⅳ	岩手県九戸郡軽米町第5地割長倉166	△	△	△	0	1	溜1996
81 一王寺	青森県八戸市是川一王寺2-3	△	△	○	0	5	村木ほか2010, 横山2020, 宇部2021
82 風張(1)	青森県八戸市是川猶森地内	△	△		0	3	小笠原・村木1991
83 新井田古館	青森県八戸市新井田古館1-7		○		0	1	西村2016
84 牛ヶ沢(4)	青森県八戸市松館牛ヶ沢地内			△	0	1	村木・小笠原2001
85 野場(5)	青森県三戸郡階上町金山沢野場28	△	△		0	9	鈴木ほか1993
86 尻堀込	青森県八戸市鮫町和山16	△	△	△	0	1	木村ほか1992
87 上水沢Ⅱ	岩手県九戸郡洋野町大野水沢第7地割日当12番地2外				0	1	小野寺・北村2002
88 西平内I	岩手県九戸郡洋野町種市第37地割地内				1	1	千田2020
89 平内Ⅱ	岩手県九戸郡洋野町種市第43地割100番地38	△	△		0	1	千田2013
90 北玉川	岩手県九戸郡洋野町種市第14地割北玉川地内		○		0	1	須原・野中2021
91 鹿糠浜I	岩手県九戸郡洋野町種市15地割鹿糠浜地内	△	△	△	0	1	杉沢ほか2021
92 田高I	岩手県久慈市長内町第9地割80-2		△		0	3	千葉1997
93 二子	岩手県久慈市長内町第43地割9-1外	△	△		0	1	千葉1993
94 力持	岩手県下閉伊郡普代村16地割天拝坂	△	△		0	1	星2019
95 館石野I	岩手県下閉伊郡田野畑村浜岩泉館石野	△	△		0	10	菊池ほか1997
96 隠里	青森県むつ市川内町高野川地内		○		0	11	江坂1953, 児玉2005
97 酪農(12)	青森県むつ市田名部二又川目地内	△	△	△	1	1	江坂1953
98 酪農(5)	青森県むつ市田名部内田42-3	○			0	1	橋1971
99 内田(1)	青森県むつ市田名部内田地内	△	△	△	0	2	浅田・齋藤・加藤2018
100 酪農(3)	青森県むつ市田名部斗南岡地内	△	△		1	1	中村2020, 折登・長谷川2022
101 弥栄平(2)	青森県上北郡六ヶ所村尾駮表館2-47外	△	△		0	1	成田謙・岡田・坂本1984
102 弥栄平(1)	青森県上北郡六ヶ所村尾駮表館地内	○			0	1	三浦ほか1986
103 弥栄平(4)	青森県上北郡六ヶ所村尾駮表館22-14外	○			0	1	市川ほか1987
104 富ノ沢(2)	青森県上北郡六ヶ所村尾駮上尾駮299外	○			0	1	成田滋・奈良・中嶋1991
105 平畑(5)	青森県三沢市三沢平畑65-116		△	△	0	1	田島・長尾1991
106 上尾駮(2)	青森県上北郡六ヶ所村尾駮上尾駮269外		○		1	3	成田滋ほか1988
107 大石平	青森県上北郡六ヶ所村尾駮野野地内	△	○	△	1	17	成田謙ほか1985, 遠藤ほか1986, 1987
108 札地	青森県下北郡東通村尻屋念仏間27-20	△	△	△	1	1	橋1973, 工藤2001

付表2 配石遺構一覧1

	遺跡名	地域	遺構名	I期	II期	III期	環状列石	備考		遺跡名	地域	遺構名	I期	II期	III期	環状列石	備考
1	大川添(4)	津軽	配1		○				15	堀合I	津軽	配3	△	△			
1	大川添(4)	津軽	配2		○				15	堀合I	津軽	棺1	○				
2	大川添(3)	津軽	配1	△	△	△			15	堀合I	津軽	棺2	○				
2	大川添(3)	津軽	配2	△	△	△			15	堀合I	津軽	棺3	○				
2	大川添(3)	津軽	配101	△	△	△			15	堀合I	津軽	棺4	○				
2	大川添(3)	津軽	配102	△	△	△			15	堀合I	津軽	棺5	○				
2	大川添(3)	津軽	配103	△	△	△			15	堀合I	津軽	棺6	○				
2	大川添(3)	津軽	配104	△	△	△			15	堀合I	津軽	棺7	○				
2	大川添(3)	津軽	配105	△	△	△			15	堀合I	津軽	棺8	○				
2	大川添(3)	津軽	配106	△	△	△			15	堀合I	津軽	棺9	○				
2	大川添(3)	津軽	配108	△	△	△			15	堀合I	津軽	棺10	○				
2	大川添(3)	津軽	配203	△	△	△			15	堀合I	津軽	棺11	○				
2	大川添(3)	津軽	配204	△	△	△			15	堀合I	津軽	棺12	○				
2	大川添(3)	津軽	配206	△	△	△			16	堀合III	津軽	積石塚土壇墓1	△				
2	大川添(3)	津軽	配207	△	△	△			16	堀合III	津軽	棺1	△				
2	大川添(3)	津軽	配209	△	△	△			16	堀合III	津軽	棺2	△				
2	大川添(3)	津軽	配210	△	△	△			16	堀合III	津軽	棺3	△				
2	大川添(3)	津軽	配211	△	△	△			16	堀合III	津軽	棺4	△				遺存状態悪い
2	大川添(3)	津軽	配212	△	△	△			17	天狗岱	津軽	墳墓1	△	△			
2	大川添(3)	津軽	配213	△	△	△			18	小金森	津軽	土2	△	△			
2	大川添(3)	津軽	配214	△	△	△			18	小金森	津軽	土5	△	△			
2	大川添(3)	津軽	配215	△	△	△			18	小金森	津軽	土6	△	△			
2	大川添(3)	津軽	配309	△	△	△			18	小金森	津軽	土7	△	△			写真のみ
2	大川添(3)	津軽	配310	△	△	△			18	小金森	津軽	土8	△	△			
3	川原平(6)	津軽	配1	△					18	小金森	津軽	土11	△	△			
4	砂子瀬	津軽	'09配1	△	△	△			18	小金森	津軽	土12	△	△			
4	砂子瀬	津軽	'09配2	△	△	△			19	木戸口	津軽	配石遺構	△	△	△		
4	砂子瀬	津軽	'09配3	△	△	△			20	長坂(1)	津軽	配1	○				
4	砂子瀬	津軽	'09配4	△	△	△			20	長坂(1)	津軽	配2	△	△	△		
4	砂子瀬	津軽	'09配5	△	△	△			21	平野	津軽	集1	○				詳細不明
4	砂子瀬	津軽	'12配1	△	△	△			21	平野	津軽	集2	○				
4	砂子瀬	津軽	'12配4	△	△	△			21	平野	津軽	集3	○				詳細不明
4	砂子瀬	津軽	'14配1	△	△	△			21	平野	津軽	石棺墓	○				
4	砂子瀬	津軽	'14配3	△	△	△			21	平野	津軽	土91	○				
5	水上(2)	津軽	石棺墓A群	○				61基に分類可 石器含む	22	太師森	津軽	組54	△	△			
5	水上(2)	津軽	配1001	△	△	△			22	太師森	津軽	組59	△	△			
5	水上(2)	津軽	配1002	△	△	△			22	太師森	津軽	組60	△	△			
5	水上(2)	津軽	配1003	△	△	△			22	太師森	津軽	組61	△	△			
5	水上(2)	津軽	配1004	△	△	△			22	太師森	津軽	組62	△	△			
5	水上(2)	津軽	配1005	△	△	△			22	太師森	津軽	組64	△	△			
5	水上(2)	津軽	配1006	△	△	△			22	太師森	津軽	組65	△	△			
5	水上(2)	津軽	配1008	△	△	△			22	太師森	津軽	半円状特殊組石1	△	△			
5	水上(2)	津軽	配1009	△	△	△			22	太師森	津軽	半円状特殊組石2	△	△			
5	水上(2)	津軽	配4501	△	△	△			22	太師森	津軽	棺1	△	△			
5	水上(2)	津軽	棺17	△	△	△			22	太師森	津軽	棺2	△	△			
5	水上(2)	津軽	棺18	○					22	太師森	津軽	棺3	△	△			
5	水上(2)	津軽	棺19	○					22	太師森	津軽	棺4	△	△			
5	水上(2)	津軽	棺20	△	△	△			22	太師森	津軽	棺5	△	△			
5	水上(2)	津軽	棺21	○					22	太師森	津軽	棺6	△	△			
5	水上(2)	津軽	棺22	△	△	△			22	太師森	津軽	棺7	△	△			
5	水上(2)	津軽	棺23	△	△	△			22	太師森	津軽	環状列石	○			○	
5	水上(2)	津軽	棺24	△	△	△			23	山田(2)	津軽	配1	△				
5	水上(2)	津軽	棺25	△	△	△			24	花巻	津軽	配石遺構	△				
5	水上(2)	津軽	棺26	△	△	△			24	花巻	津軽	棺1	○				
6	水上(4)	津軽	配1	△	△	△			24	花巻	津軽	棺2	○				遺存状態悪い
7	坊主沢	津軽	配2	△	△	△			24	花巻	津軽	棺3	○				
8	根の山	津軽	配1	△	△	△			24	花巻	津軽	棺4	○				
8	根の山	津軽	配2	△	△	△			24	花巻	津軽	棺5	○				
8	根の山	津軽	配3	△	△	△			24	花巻	津軽	棺6	○				
8	根の山	津軽	配4	△	△	△			25	一ノ渡	津軽	V32組石	△	△			16基に分類可
8	根の山	津軽	配5	△	△	△			26	三内丸山(9)	津軽	集2	○				
8	根の山	津軽	配6	△	△	△			27	小牧野	津軽	環状列石		○		○	
8	根の山	津軽	配7	△	△	△			27	小牧野	津軽	'96配11		○			
8	根の山	津軽	配8	△	△	△			27	小牧野	津軽	'96配13,01配3		○			
8	根の山	津軽	配9	△	△	△			27	小牧野	津軽	'96配15		○			
9	ヤブシ長根	津軽	配石遺跡		○				27	小牧野	津軽	'96配17		○			
10	餅ノ沢	津軽	'00配1	△	△	△			27	小牧野	津軽	'96集石遺構		○			
10	餅ノ沢	津軽	'00配23	○				密集のため1基と判定	27	小牧野	津軽	'98トレンチ集1		○			
10	餅ノ沢	津軽	'00配4	△	△				27	小牧野	津軽	'98トレンチ集1		○			
10	餅ノ沢	津軽	'00配5	○					27	小牧野	津軽	'01配1		○			
10	餅ノ沢	津軽	'00配6	○					27	小牧野	津軽	'01配2		○			
10	餅ノ沢	津軽	'00配7	○					27	小牧野	津軽	'01配4		○			
10	餅ノ沢	津軽	'00配9	○					27	小牧野	津軽	'01集1		○			
10	餅ノ沢	津軽	'00配10	○					28	稲山	津軽	配2	△	△			
10	餅ノ沢	津軽	'00配11	○				棺1~3含む	28	稲山	津軽	配3	△	△			
10	餅ノ沢	津軽	'00棺4	○					28	稲山	津軽	配4	△	△			
10	餅ノ沢	津軽	'02配1	△	△				28	稲山	津軽	配5	△	△			
11	十腰内(2)	津軽	B1区土1	△	△	△			28	稲山	津軽	配6	△	△	△		
12	高長根山	津軽	集石遺構	△	△	△		23基に分類可	28	稲山	津軽	配7	△	△			
12	高長根山	津軽	石棺墓	△	△	△			28	稲山	津軽	配8	△	△			
13	扇田(2)	津軽	土48	△	△	△		遺存状態悪い	28	稲山	津軽	配9	△	△	△		
13	扇田(2)	津軽	土49	△	△	△		遺存状態悪い	28	稲山	津軽	配11	△	△			
14	上牡丹森	津軽	配1		△	△			28	稲山	津軽	配14	△	△			
14	上牡丹森	津軽	配2	△	△	△			28	稲山	津軽	配19	△	△			
14	上牡丹森	津軽	配7	△	△	△			28	稲山	津軽	配20	△	△			
14	上牡丹森	津軽	配15			○			28	稲山	津軽	配21	△	△			
15	堀合I	津軽	積石塚土壇墓1	○					28	稲山	津軽	棺1	△				
15	堀合I	津軽	配1	△	△				28	稲山	津軽	棺2	△				
15	堀合I	津軽	配2	△	△				28	稲山	津軽	棺3	△				

付表2 配石遺構一覽2

遺跡名	地域	遺構名	I期	II期	III期	環状列石	備考
28	稲山	津軽 環状列石	△	△		○	
29	山野峠	津軽 83棺1	○				
29	山野峠	津軽 83棺2	○				
29	山野峠	津軽 83棺3	○				
29	山野峠	津軽 83棺4.5	○				
29	山野峠	津軽 83棺6	○				
29	山野峠	津軽 83棺7	○				
30	竜毛沢館	米代 配101	△	△			
31	小袋岱	米代 配1	△	△			
31	小袋岱	米代 配35	△	△			
31	小袋岱	米代 配67	△	△			
32	伊勢堂岱	米代 環状列石A	○	○		○	
32	伊勢堂岱	米代 環状列石B		○		○	
32	伊勢堂岱	米代 環状列石C	○	○		○	
32	伊勢堂岱	米代 環状列石D	○	○		○	
32	伊勢堂岱	米代 土墓213		○			
32	伊勢堂岱	米代 土墓273	○				配石墓と報告、詳細不明
32	伊勢堂岱	米代 土墓439A		○			
32	伊勢堂岱	米代 土墓466		○			
32	伊勢堂岱	米代 土墓609C		○			
32	伊勢堂岱	米代 土墓621		○			
32	伊勢堂岱	米代 土墓700		○			
32	伊勢堂岱	米代 配10A		○			
32	伊勢堂岱	米代 配60	△	△	△		
32	伊勢堂岱	米代 配112		○			
32	伊勢堂岱	米代 配116		○			
32	伊勢堂岱	米代 配229		○			
32	伊勢堂岱	米代 配309		○			
32	伊勢堂岱	米代 配310		○			
32	伊勢堂岱	米代 配500		○			
32	伊勢堂岱	米代 6配3		○			
32	伊勢堂岱	米代 9配2		○			
32	伊勢堂岱	米代 9配4		○			
32	伊勢堂岱	米代 9配5		○			
32	伊勢堂岱	米代 13配408		○			
33	小勝田館跡	米代 土31a	△	△	△		
34	藤株	米代 配土1002	○				
35	白坂	米代 土57		△			
36	桂の沢	米代 配31	△	△	△		詳細不明
36	桂の沢	米代 配220			○		詳細不明
36	桂の沢	米代 配222	△	△	△		詳細不明
36	桂の沢	米代 配224	△	△	△		詳細不明
36	桂の沢	米代 配261	△				詳細不明
36	桂の沢	米代 配289	△				詳細不明
36	桂の沢	米代 配294	△	△	△		詳細不明
36	桂の沢	米代 配297	△	△	△		詳細不明
36	桂の沢	米代 配523	△	△	△		詳細不明
36	桂の沢	米代 配527			○		詳細不明
36	桂の沢	米代 配701	△	△	△		詳細不明
36	桂の沢	米代 配702	△	△	△		詳細不明
36	桂の沢	米代 配706	△	△	△		詳細不明
36	桂の沢	米代 配707	△	△	△		詳細不明
36	桂の沢	米代 配716	△	△	△		詳細不明
37	桐内A	米代 埋96		○			
37	桐内A	米代 埋105		○			
38	桐内D	米代 土14	△				
39	桐内C	米代 土1		○			
39	桐内C	米代 土6		○			
39	桐内C	米代 土10		○			
39	桐内C	米代 土12		○			
39	桐内C	米代 土18		○			
39	桐内C	米代 土19					
39	桐内C	米代 土20		○			
39	桐内C	米代 土22		○			
39	桐内C	米代 土28		○			
39	桐内C	米代 性格不明遺構17		△			
40	日廻岱B	米代 土2041	△				
40	日廻岱B	米代 土2043	△	△	△		
40	日廻岱B	米代 土2142	△				
40	日廻岱B	米代 土2221	△				
40	日廻岱B	米代 土2227	△				
40	日廻岱B	米代 土2334	△				
40	日廻岱B	米代 土2500	△				
40	日廻岱B	米代 土2501	○				
40	日廻岱B	米代 土2503	△				
40	日廻岱B	米代 土2504	△				
40	日廻岱B	米代 土2505	△				
40	日廻岱B	米代 土2524	△				
40	日廻岱B	米代 土2525	△	△	△		
41	漆下	米代 土126	△	△	△		
41	漆下	米代 土131			△		
41	漆下	米代 土145			△		
41	漆下	米代 土176			△		
41	漆下	米代 土187			△		
41	漆下	米代 土234			△		
41	漆下	米代 土246			△		
41	漆下	米代 土347	△	△	△		
41	漆下	米代 土356			△		遺存状態悪い
41	漆下	米代 フ土337		○			
41	漆下	米代 土365			△		
41	漆下	米代 土372			△		
41	漆下	米代 土373			△		
41	漆下	米代 土417			△		
41	漆下	米代 土431			△		
41	漆下	米代 土433			△	△	
41	漆下	米代 土439			△	△	
41	漆下	米代 フ土457			△	△	
41	漆下	米代 土460			△	△	
41	漆下	米代 土497			△	△	
41	漆下	米代 フ土515			○		詳細不明
41	漆下	米代 土544			△		
41	漆下	米代 土910			△		詳細不明
41	漆下	米代 土556			△		
41	漆下	米代 土586			△		
41	漆下	米代 土626			△		
41	漆下	米代 土648			△		
41	漆下	米代 土661			△		
41	漆下	米代 土667		△	△		
41	漆下	米代 土671			△		
41	漆下	米代 土674			△		
41	漆下	米代 土690			△		
41	漆下	米代 土740			△		
41	漆下	米代 土741			△		
41	漆下	米代 フ土795			△		
41	漆下	米代 土743			△		
41	漆下	米代 土746			△		
41	漆下	米代 土748			△		
41	漆下	米代 土785			△		
41	漆下	米代 土799			△		
41	漆下	米代 土862			△		
41	漆下	米代 土869			△		
41	漆下	米代 フ土1067			△		
41	漆下	米代 フ土790			△		
41	漆下	米代 土953			△		
41	漆下	米代 配土974			△		
41	漆下	米代 フ土977			△	△	
41	漆下	米代 土1062			△	△	
41	漆下	米代 配土270周辺配石				△	土10081, 10083, 配土270-272, 10018-10020, 10038, 10048, 10049, 10085を含む
41	漆下	米代 土10028				△	
41	漆下	米代 配土1076				△	
41	漆下	米代 土10109		○			
41	漆下	米代 土10130		○			
41	漆下	米代 土10142		△	△		
41	漆下	米代 フ土178				○	
41	漆下	米代 フ土180			△	△	
41	漆下	米代 フ土200				○	
41	漆下	米代 フ土411			△	△	
41	漆下	米代 フ土416				△	
41	漆下	米代 フ土422				△	
41	漆下	米代 フ土470				△	
41	漆下	米代 フ土498			○		
41	漆下	米代 フ土508				△	
41	漆下	米代 フ土553				△	
41	漆下	米代 フ土643				△	
41	漆下	米代 フ土750				△	
41	漆下	米代 フ土821				△	
41	漆下	米代 フ土824				△	
41	漆下	米代 フ土852				△	
41	漆下	米代 フ土856				△	
41	漆下	米代 フ土883			△	△	
41	漆下	米代 フ土958				△	
41	漆下	米代 配土888				△	
41	漆下	米代 配土110				△	
41	漆下	米代 配土212周辺配石				○	SKQ213, 10061, 10125, 10127を含む
41	漆下	米代 配土217				△	
41	漆下	米代 配土221				△	
41	漆下	米代 配土215				○	
41	漆下	米代 配土222				△	
41	漆下	米代 配土224				△	
41	漆下	米代 配土231			△	△	
41	漆下	米代 配土232				△	
41	漆下	米代 配土268				△	
41	漆下	米代 配土269				△	
41	漆下	米代 配土273				△	
41	漆下	米代 配土274				△	
41	漆下	米代 配土276				△	
41	漆下	米代 配土305				△	
41	漆下	米代 配土323				△	
41	漆下	米代 配土407				△	
41	漆下	米代 配土462				△	
41	漆下	米代 配土617				△	
41	漆下	米代 配土769				△	
41	漆下	米代 配土797				△	
41	漆下	米代 配土804				△	
41	漆下	米代 配土847				△	

付表2 配石遺構一覽3

	遺跡名	地域	遺構名	I期	II期	III期	環状列石	備考
41	漆下	米代	配土848	△	△	△		
41	漆下	米代	配土877			△		
41	漆下	米代	配土902			△		
41	漆下	米代	配土955	△	△	△		
41	漆下	米代	配土969			△		
41	漆下	米代	配土10022			△		
41	漆下	米代	配土10023			△		
41	漆下	米代	配土10024			△		
41	漆下	米代	配土10027			△		
41	漆下	米代	配土10031-10040			△		
41	漆下	米代	配土10034			△		
41	漆下	米代	配土10036			△		
41	漆下	米代	配土10050			△		
41	漆下	米代	配土10089			△		
41	漆下	米代	配土10133			△		
41	漆下	米代	配218-219-220			△		一連の遺構と判定
41	漆下	米代	配225			△		
41	漆下	米代	配223			△		
41	漆下	米代	配324	△	△	△		
41	漆下	米代	配340	△	△	△		
41	漆下	米代	配330	△	△	△		
41	漆下	米代	配1091			○		
41	漆下	米代	配1093			○		
41	漆下	米代	配1101		○			
41	漆下	米代	配10029			△		
41	漆下	米代	配10030			△		
41	漆下	米代	配10110	△				
42	二重島C	米代	土42		○			詳細不明
43	二重島B	米代	土373	△				
44	地藏岱	米代	土1002	△	△	△		
44	地藏岱	米代	土1016	△	△	△		
44	地藏岱	米代	フ土20737	△				
45	橋場岱C	米代	配1		△	△		
46	橋場岱A	米代	土19	△	△	△		
46	橋場岱A	米代	配6		△	△		
47	深渡(北秋田)	米代	土08	△				
47	深渡(北秋田)	米代	土24	△				
47	深渡(北秋田)	米代	土32	△				
47	深渡(北秋田)	米代	土46	△				
47	深渡(北秋田)	米代	土88	△				
47	深渡(北秋田)	米代	土89	△				
47	深渡(北秋田)	米代	土90	△				
47	深渡(北秋田)	米代	土112	△				
47	深渡(北秋田)	米代	土118	△				
47	深渡(北秋田)	米代	土3181	△	△	△		
47	深渡(北秋田)	米代	楯12	△				
48	碎測	米代	土27	△	△	△		
48	碎測	米代	フ土98	△	△	△		
49	下野II	米代	集6		○			
49	下野II	米代	集10		○			
49	下野II	米代	集20		○			
49	下野II	米代	集22		○			
50	森吉家ノ前A	米代	土08			○		
50	森吉家ノ前A	米代	土14		○			
50	森吉家ノ前A	米代	土21		△	△		
50	森吉家ノ前A	米代	土37		△	△		
50	森吉家ノ前A	米代	土42		△	△		
50	森吉家ノ前A	米代	土249		○			
50	森吉家ノ前A	米代	土472		○			
50	森吉家ノ前A	米代	土5043		○			
50	森吉家ノ前A	米代	土5047		○			
51	諏訪台C	米代	土12	△	△			
51	諏訪台C	米代	土23	△	△			
51	諏訪台C	米代	土38	△	△			
52	塚の下	米代	第1次土5		○			
52	塚の下	米代	第2次土3	△	△	△		
53	中山(大館)	米代	立石遺構	△	△	△		
53	中山(大館)	米代	土7	△	△	△		
53	中山(大館)	米代	土8	△	△	△		
53	中山(大館)	米代	土9	△	△	△		
53	中山(大館)	米代	土11	△	△	△		
53	中山(大館)	米代	土13	△	△	△		
53	中山(大館)	米代	土21	△	△	△		
53	中山(大館)	米代	土22	△	△	△		
53	中山(大館)	米代	土23・24	△	△	△		
53	中山(大館)	米代	土26	△	△	△		
53	中山(大館)	米代	土27	△	△	△		
53	中山(大館)	米代	土28	△	△	△		
53	中山(大館)	米代	土30	△	△	△		
53	中山(大館)	米代	土34	△	△	△		
53	中山(大館)	米代	土36	△	△	△		
53	中山(大館)	米代	土44	△	△	△		
54	寒沢	米代	土6	△	△	△		
54	寒沢	米代	土21	△	△	△		
54	寒沢	米代	土22	△	△	△		
54	寒沢	米代	配1	△	△	△		
54	寒沢	米代	配2	△	△	△		
55	大岱II	米代	配1	△	△			
55	大岱II	米代	配2		△			

	遺跡名	地域	遺構名	I期	II期	III期	環状列石	備考
55	大岱II	米代	配3		△			
55	大岱II	米代	配4		△			
55	大岱II	米代	配5		△			
56	中小坂	米代	配2		△	△		
56	中小坂	米代	配4		△	△		
56	中小坂	米代	配5		△	△		
56	中小坂	米代	土6		△	△		
56	中小坂	米代	土23		△	△		
57	高屋館	米代	環状列石		○		○	
58	天戸森	米代	配2・3・4	△				
59	北の林I	米代	フ土2	△				
60	大湯	米代	万座		○		○	
60	大湯	米代	野中堂		○		○	
60	大湯	米代	D1配220			○		
60	大湯	米代	D3配301			○		
60	大湯	米代	D6配602			○		
60	大湯	米代	D6・7配1			○		
60	大湯	米代	D1配202-226			○		
60	大湯	米代	D1・4配401			○		
60	大湯	米代	D4・5配402			○		
60	大湯	米代	D4・5配403			○		
60	大湯	米代	D4配411			○		
60	大湯	米代	D4・F4配3			○		
60	大湯	米代	F4配1			○		
60	大湯	米代	F4配2			○		
60	大湯	米代	F4配4			○		
60	大湯	米代	D3配302			○		
60	大湯	米代	D4配406			○		
60	大湯	米代	D4配408			○		
60	大湯	米代	B2配2			○		
60	大湯	米代	D1配218		○			
60	大湯	米代	D1配219		○			
60	大湯	米代	D1配221		○			
60	大湯	米代	D2配226		○			
60	大湯	米代	D2配229		○			
60	大湯	米代	D2配230		○			
60	大湯	米代	D3配303		○			
60	大湯	米代	D4配404-405		○			
60	大湯	米代	D6配604		○			
60	大湯	米代	D6配605		○			
60	大湯	米代	D1配203-204		○			
60	大湯	米代	D1配205		○			
60	大湯	米代	D1配206		○			
60	大湯	米代	D1配213		○			
60	大湯	米代	F1配403		○			
60	大湯	米代	F1配404		○			
60	大湯	米代	F1配407		○			
60	大湯	米代	F1配408		○			
60	大湯	米代	F1配409		○			
60	大湯	米代	F3配901		○			
60	大湯	米代	F3配902		○			
60	大湯	米代	F3配903		○			
60	大湯	米代	F3配904		○			
60	大湯	米代	F3配911		○			
60	大湯	米代	D5配906		○			
60	大湯	米代	F4配5		○			
60	大湯	米代	F4配6		○			
60	大湯	米代	F4配7		○			
60	大湯	米代	F4配8		○			
60	大湯	米代	F4配9		○			
60	大湯	米代	F4配10-11		○			
60	大湯	米代	F5配1		○			
60	大湯	米代	G1配701		○			
60	大湯	米代	G1配702		○			
60	大湯	米代	G1配703		○			
60	大湯	米代	G1配704		○			
60	大湯	米代	G1配705		○			
60	大湯	米代	G1配706		○			詳細不明
60	大湯	米代	G1配707		○			詳細不明
60	大湯	米代	B3配1		○			
60	大湯	米代	B3配2		○			
60	大湯	米代	B3配3		○			
60	大湯	米代	A1配1		○			
60	大湯	米代	A1配2		○			
60	大湯	米代	A1配3		○			
60	大湯	米代	A1配4		○			
60	大湯	米代	A1配5		○			
60	大湯	米代	A1配6		○			
60	大湯	米代	A1配7		○			
60	大湯	米代	A1配8		○			
60	大湯	米代	A1配9		○			
60	大湯	米代	A2配10		○			
60	大湯	米代	A2配11		○			
60	大湯	米代	A2配12		○			
60	大湯	米代	A2配13		○			
60	大湯	米代	A2配14		○			
60	大湯	米代	A2配15		○			
60	大湯	米代	A2配16		○			
60	大湯	米代	A2配17		○			

The Development of “*Kanjo-Resseki*” in the Aomori Region during the First Half of the Late Jomon Period

Kouhei TAKAYA

While recent research on the Jomon stone circles (*Kanjo-Resseki*, in Japanese) has focused on examples in the North Kanto and the Chuo-Kochi, there has been little discussion on the process of their establishment in Aomori Region (Aomori Prefecture and surrounding areas, i.g., north of 40 degrees north latitude in Honshu Island). In addition, with the diversification of issues since the 1990s, the definition of *Kanjo-Resseki* has been varied between several researchers. In this paper, in order to clarify the formation process and characteristics of those archeological features in Aomori Region, the term “*Kanjo-Resseki*” is re-defined to be more suitable for organizing the current discussions. Then, archeological examples from Tsugaru, Yoneshiro River basin, Nanbu, and Kamikita-Shimokita areas of the first half of the Late Jomon Period are classified based on their forms. The result here suggests that the establishment of “*Kanjo-Resseki*” in Aomori Region was to the consequence of a combination of factors: the influence of “*Kanjo-Resseki*” from the south, local elements. Local elements indicate “Late Jomon Stone coffin burials (*Sekkanbo*, in Japanese)” and various settlement structures like “linear settlements” and “circular settlements”. It is also indicated that most “*Kanjo-Resseki*” in Aomori Region comprised by linear stone alignments, rather than a circular one, to construct a public space. That space appear to be different from a central square of circular settlement since they were constructed in a region-specific manner. In addition, linear stone alignments found at the Shimomura B and Tateishino I sites likely played the same role as “*Kanjo-Resseki*”. Finally, the author proposes that “*Kanjo-Resseki*” and those linear stone alignments should be discussed together as a feature which constructed plaza-like space, regardless of whether they comprise a circular structure or not.